

国立大学法人

2022-2023

# 総合研究大学院大学

総合研究大学院大学

## 文化科学研究科

地域文化学  
比較文化学  
国際日本研究  
日本歴史研究  
日本文学研究

## 物理科学研究科

構造分子科学  
機能分子科学  
天文科学  
核融合科学  
宇宙科学

## 高エネルギー 加速器科学研究科

加速器科学  
物質構造科学  
素粒子原子核

## 複合科学研究科

統計科学  
極域科学  
情報学

## 生命科学研究科

遺伝学  
基礎生物学  
生理科学

## 先導科学研究科

生命共生体進化学

学長あいさつ	4
先端大学院について	5
総合研究大学院大学の特徴	6
総合研究大学院大学に参加する 大学共同利用機関	8
沿 革	10
組 織	11

### ■文化科学研究科

文化科学研究科とは	14
地域文化学専攻	15
比較文化学専攻	15
国際日本研究専攻	15
日本歴史研究専攻	16
日本文学研究専攻	16

### ■物理学研究科

物理学研究科とは	17
構造分子科学専攻	18
機能分子科学専攻	18
天文科学専攻	18
核融合科学専攻	19
宇宙科学専攻	19

### ■高エネルギー加速器科学研究科

高エネルギー加速器科学研究科とは	20
加速器科学専攻	21
物質構造科学専攻	21
素粒子原子核専攻	21

### ■複合科学研究科

複合科学研究科とは	22
統計科学専攻	23
極域科学専攻	23
情報学専攻	23

### ■生命科学研究科

生命科学研究科とは	24
遺伝学専攻	25
基礎生物学専攻	25
生理科学専攻	25

### ■先端科学研究科

先端科学研究科とは	26
生命共生体進化学専攻	27

総研大の教育プログラム	28
社会へ向けた取組	31
統合進化科学研究センター	33
教育開発センター	34
学術情報基盤センター	34
情報基盤整備推進部	34
本部図書館	35
データブック	36
アクセスマップ	44





総合研究大学院大学(以下、総研大)は、大学共同利用機関という研究所などを基盤とする専攻と、大学本部に直結した先導科学研究科からなる、学部を持たない大学院だけの大学です。大学共同利用機関とは、各研究分野において日本全国の大学が共同で利用できる研究所であり、これらの機関は、それぞれの研究分野の拠点として最先端の研究を行いながら、研究者コミュニティの中核となり、国際的な共同研究も推進しています。先導科学研究科は、このような基盤機関を持ちませんが、葉山の地で、生物の進化と、科学と社会の関係に関する最先端の研究を行っています。

総研大は、このような優れた研究拠点で院生の教育を行い、次世代の研究者を養成するという、世界にも類をみないコンセプトのもと、1988(昭和63)年10月に設立されました。2018(平成30)年11月には30周年を祝うことができました。

総研大の教育現場は、すなわち、日本の最先端研究の現場です。通常の学部につなげた大学院での生活とは大変異なり、とくに5年一貫制の入学者の場合、学部卒ですぐにも専門の研究者に取り巻かれながら、自らの勉学と研究に励むこととなります。学生数の2倍以上にのぼる教員数。ほかでは得られない装置や資料、一流の研究者集団。このような環境で博士論文のための研究をすることは、素晴らしいチャンスではありますが、普通の大学とは異なる面、ストレスもあるかもしれません。しかし、どの専攻も院生たちを大事にし、そこで過ごす時間が実り多く楽しいものとなるよう工夫しています。大学本部も精いっぱいそれを支えていきます。学生のみなさんは、この研究環境を最大限に活用し、博士論文研究に取り組んでください。

総研大は創立以来、「高い専門性」と「広い視野」、そして「国際的な通用性」を教育目標に掲げてきました。先に述べたような研究現場で学ぶのですから、「高い専門性」と「国際的な通用性」は、自ずと身についでいくでしょう。しかし、「広い視野」はどうでしょうか。「広い視野」とは、自分の研究対象を、もっと広い、

人類の知的な活動全体の中で位置づけて語ることができる能力、現在の専門分野を越えて、新たな地平を想像することのできる能力です。博士論文の執筆中にこれらを獲得することは難しいかもしれませんが、そんなことをつねに頭の隅に置きながら研究に励んでいただければと思います。

さて、そのような意味での「広い視野」とは別に、たくさんの学問分野を横断的に見ることには、新たな可能性があります。既存の一つの分野の中だけで思考を終わらせることなく、複数の分野の知見を組み合わせていけば、これまでにない新しいアプローチによる、新しい発見があるかもしれません。私たちは、そんな挑戦をしたいと考える人たちを応援したいと思います。そこで、2023年度から、現在の研究科、専攻の壁を取り払い、先端学術院先端学術専攻のもとに20のコースを置くように改組することを考えています。エネルギー、物質、宇宙、生命、情報、歴史、文化と、幅広い知識領域をカバーする専攻をそろえた本学の特色を活かして、それらの間をつなぎ、新しい学問を拓く可能性に、みなさんを導くことができれば幸いです。

現在、大学や基礎研究を取り巻く日本の状況は、決して希望に満ちているとは言えません。それでも、先の見えにくい時代にあって、どのような状況でどんなに難しい事態に直面しても、一流の研究者としてそれに立ち向かい、世界で活躍できる人材を輩出していけるよう、関係各位のご協力のもと、日々努力していく所存です。

2022年4月1日



総合研究大学院大学学長

長谷川真理子

はせがわ まりこ 理学博士。東京大学理学部卒。東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。

タンザニア野生動物局、東京大学理学部人類学教室助手、専修大学助教授・教授、Yale大学人類学部客員准教授、早稲田大学政治経済学部教授を歴任。2006年総合研究大学院大学教授、2007年先導科学研究科生命共生体進化学専攻長、2011年先導科学研究科長、2014年理事・副学長を経て、2017年4月より現職。

専門は行動生態学、自然人類学。野生のチンパンジー、イギリスのダマジカ、野生ヒツジ、スリランカのクジャクなどの研究を行ってきた。最近では人間の進化と適応の研究を行っている。

2012年日本動物行動学会日高賞受賞。

## ▶ 2023年4月 先端学術院へ（設置構想中）



総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等世界トップクラスの研究機関を基盤とする、大学院大学です。世界最先端の研究拠点を教育の現場として、高い専門性を持った博士人材の育成を行ってきました。

一方で、刻々と変化する学術分野の動向や社会の要請を踏まえ、複合的・融合的な課題に取り組む研究者人材を育成していくには、高度に専門的な教育リソースを、分野を超えて柔軟に活用できる体制を構築する必要があります。

そのため、2023年4月より、現在の6研究科の体制を見直し、1つの先端学術院のもとに20コースを設置する予定です。

また、国立国語研究所及び総合地球環境学研究所も新たに加わることを構想しています。

<https://next20.soken.ac.jp>



現在の6研究科の体制から、先端学術院のもとに20コースを設置する体制へ移行することで、高い専門性を持った大学共同利用機関等（基盤機関）の教育リソースを柔軟に構築できる体制を整備し、複合的・融合的な課題に取り組む次世代の研究者育成を目指します。



※上図は2022年4月1日時点の予定です。また、設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。



## 創設の趣旨・目的



近年、従来の学問分野の枠を超えた独創的、国際的な学術研究の推進や、科学の新しい流れを創造する先導的学問分野の開拓の重要性が強く要請されております。

本学は、このような要請に対応する研究者を養成するため、我が国最初の独立大学院大学として創設されました。学問諸分野で先端的な研究を行い、国内外の研究者の共同研究の推進に中心的な役割を果たしている大学共同利用機関等の高度で優れた研究環境を活用して教育を行っています。

本学は、新しい問題を発掘して課題を解決できる、幅広い視野を持った国際的で独創性豊かな研究者を養成します。また、従来の学問分野の枠を超えた異分野連繫的、国際的な学術研究の推進並びに先導的学問分野を開拓します。

## 大学共同利用機関とは



大学共同利用機関とは、国内外の大学研究者が共同で利用でき、各種の高度で大型の研究施設・実験設備又は貴重な学術資料等を保有する、日本が世界に誇れるトップレベルの研究機関です。例えば TV のニュースや新聞で、ハワイで活躍中の大型望遠鏡「すばる」や南極に向かう観測船「しらせ」などのことを耳にしたことがありませんか。「すばる」は総研大を構成している国立天文台が建設したものですし、「南極観測」は同じく国立極地研究所が行っています。

研究活動の多くは非常に基礎的であるとともに大規模な施設等を要し、莫大な投資を必要とします。そのため、予算や研究効率等の面から大規模な研究活動に必要な人材や研究資金等を重点的に投入し、独創的で最先端の研究を行っています。

## 研究現場での高度専門教育と広い視野を養う総合教育



本学の博士課程は、日本が世界に誇るトップレベルの研究機関（大学共同利用機関等）が保有する大型または特殊な実験・観測施設あるいは学術的に価値のある資料やデータ等を授業に直接活用するとともに、国際的な研究拠点として第一線で活躍する国内外からの多数の研究者集団と日常的に接触できる理想的な教育研究環境にあります。また、教員スタッフは、学生 1 人に対して教員 2 ～ 3 人を擁しており、本学は高度の専門教育と広い視野を養う総合教育を実施します。

# 総合研究大学院大学に参加する大学共同利用機関

## 国立大学法人 総合研究大学院大学本部①

総合進化科学研究センター  
教育開発センター  
学術情報基盤センター・附属図書館  
生命共生体進化化学専攻(先導科学研究科)  
〒240-0193  
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)  
電話 046(858)1500(代表)  
<https://www.soken.ac.jp/>  
電話 046(858)1577(専攻担当係)  
<https://www.esb.soken.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立民族学博物館②

地域文化学専攻・比較文化学専攻  
(文化科学研究科)  
〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06(6876)2151(代表)  
電話 06(6878)8236(専攻担当係)  
<https://www.minpaku.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター③

国際日本研究専攻  
(文化科学研究科)  
〒610-1192  
京都府京都市西京区御陵大枝山町 3-2  
電話 075(335)2222(代表)  
電話 075(335)2052(専攻担当係)  
<https://www.nichibun.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館④

日本歴史研究専攻  
(文化科学研究科)  
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117  
電話 043(486)0123(代表)  
電話 043(486)6473(専攻担当係)  
<https://www.rekihaku.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館⑤

日本文学研究専攻  
(文化科学研究科)  
〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3  
電話 050(5533)2900(代表)  
電話 050(5533)2915(専攻担当係)  
<https://www.nijl.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所⑥

構造分子科学専攻・機能分子科学専攻  
(物理科学研究科)  
<https://www.ims.ac.jp/>  
〒444-8585  
愛知県岡崎市明大寺町西郷中 38  
電話 0564(55)7000(代表)  
電話 0564(55)7139(専攻担当係)

## 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 基礎生物学研究所⑦

基礎生物学専攻(生命科学研究所)  
<https://www.nibb.ac.jp/>  
〒444-8585  
愛知県岡崎市明大寺町西郷中 38  
電話 0564(55)7000(代表)  
電話 0564(55)7139(専攻担当係)

## 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所⑧

生理科学専攻(生命科学研究所)  
<https://www.nips.ac.jp/>  
〒444-8585  
愛知県岡崎市明大寺町西郷中 38  
電話 0564(55)7000(代表)  
電話 0564(55)7139(専攻担当係)

## 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台⑨

天文学専攻(物理科学研究科)  
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
電話 0422(34)3600(代表)  
電話 0422(34)3659(専攻担当係)  
<https://www.nao.ac.jp/>

### 国立天文台 水沢VLBI観測所⑩

〒023-0861 岩手県奥州市水沢星ガ丘町 2-12  
電話 0197(22)7111(代表)

### 国立天文台 野辺山宇宙電波観測所⑪

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山 462-2  
電話 0267(98)4300(代表)

### 国立天文台 ハワイ観測所⑫

650 North A'ohoku Place, Hilo, Hawaii  
96720 U.S.A.  
電話 1-808-934-7788(代表)

### 国立天文台 チリ観測所⑬

Alonso de Cordova 3788, Office 61B  
Vitacura, Santiago, Chile  
電話 56-2-2656-9253(代表)

## 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所⑭

核融合科学専攻(物理科学研究科)  
〒509-5292 岐阜県土岐市下石町 322-6  
電話 0572(58)2222(代表)  
電話 0572(58)2042(専攻担当係)  
<https://www.nifs.ac.jp/>

## 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所⑮

宇宙科学専攻(物理科学研究科)  
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1  
電話 042(759)8012(専攻担当係)  
<https://www.isas.jaxa.jp/>

## 大学共同利用機関法人⑯ 高エネルギー加速器研究機構 (つくばキャンパス)

### 加速器研究施設・共通基盤研究施設 加速器科学専攻

(高エネルギー加速器科学研究科)

### 物質構造科学研究所

物質構造科学専攻

(高エネルギー加速器科学研究科)

### 素粒子原子核研究所

素粒子原子核専攻

(高エネルギー加速器科学研究科)

〒305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1

電話 029(864)1171(代表)

電話 029(864)5128(専攻担当係)

<http://www.kek.jp/>

### 東海キャンパス⑰

〒319-1106 茨城県那珂郡東海村大字白方 203-1

## 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所

統計科学専攻(複合科学研究科)

〒190-8562 東京都立川市緑町 10-3

電話 050(5533)8500(代表)

電話 050(5533)8514(専攻担当係)

<https://www.ism.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所⑱

極域科学専攻(複合科学研究科)

〒190-8518 東京都立川市緑町 10-3

電話 042(512)0608(代表)

電話 050(5533)8645(専攻担当係)

<https://www.nipr.ac.jp/>

### 南極昭和基地⑲

極域科学専攻(複合科学研究科)

## 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所⑳

情報学専攻(複合科学研究科)

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

学術総合センター

電話 03(4212)2110(専攻担当係)

<https://www.nii.ac.jp/>

## 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所㉑

遺伝学専攻(生命科学研究所)

〒411-8540 静岡県三島市谷田1111

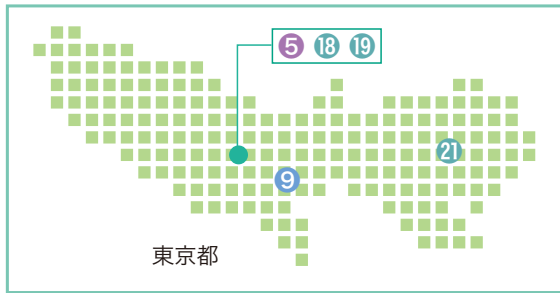
電話 055(981)6707(代表)

電話 055(981)6720(専攻担当係)

<https://www.nig.ac.jp/>



# キャンパスマップ

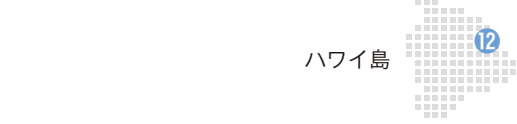


カウアイ島

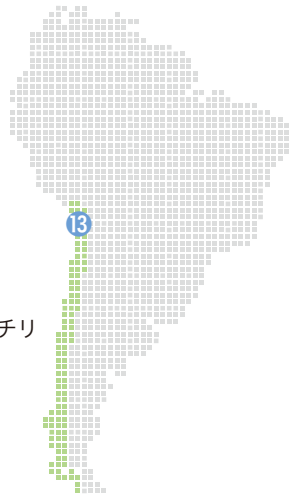
オアフ島

マウイ島

ハワイ島



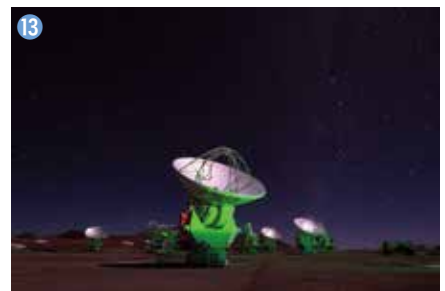
チリ



(C) NIPR



(C) NAOJ



(C) NAOJ

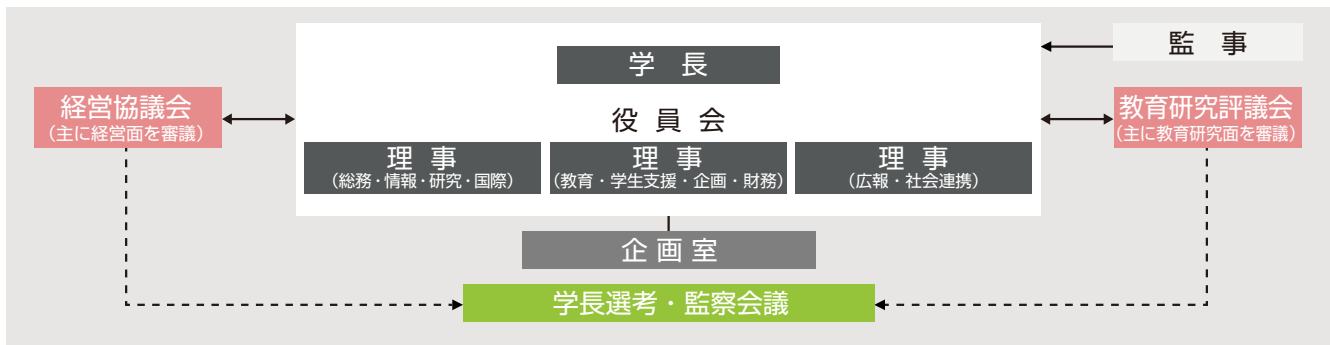
# 沿革

History

1982(昭57)年6月	国立大学共同利用機関所長懇談会が「国立大学共同利用機関における大学院の設置について」を要望	1999(平11)年4月	文化科学研究科に日本歴史研究専攻、数物科学研究科に素粒子原子核専攻設置・学生受入、先導科学研究科学生受入
1986(昭61)年4月	国立大学共同利用機関所長懇談会が「大学院問題に関するワーキング・グループ」での検討結果に基づき「総合研究大学院大学の基本構想について」を取りまとめ 岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備調査室及び同創設準備調査委員会を設置	6月	先導科学研究科棟竣工
1987(昭62)年3月	総合研究大学院創設準備調査委員会が「総合研究大学院の基本構想」を取りまとめ	2001(平13)年4月	3代学長に小平桂一(理学博士)就任 文化科学研究科にメディア社会文化専攻設置、学生受入
5月	岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院創設準備室及び同創設準備委員会を設置	7月	葉山キャンパスにおいて図書館棟(1,427m <sup>2</sup> )着工
7月	総合研究大学院創設準備委員会が「総合研究大学院大学(仮称)の創設準備について一中間まとめ」を取りまとめ	2002(平14)年2月	図書館棟竣工
1988(昭63)年4月	岡崎国立共同研究機構に総合研究大学院大学創設準備室及び同創設準備委員会を設置	4月	数物科学研究科に情報学専攻設置、学生受入
5月	本学の設置を規定した「国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和63年法律第67号)」公布、施行	2003(平15)年4月	文化科学研究科に日本文学研究専攻、数物科学研究科に宇宙科学専攻設置、学生受入
9月	総合研究大学院大学創設準備委員会が「総合研究大学院大学の創設準備について」を取りまとめ	10月	「国立大学法人法(2003年法律第112号)」公布、施行
10月	総合研究大学院大学開学 大学本部は東京工業大学長津田キャンパス内に設置	2004(平16)年4月	国立大学法人総合研究大学院大学発足 学長に小平桂一(理学博士)就任
	数物科学研究科 ・統計科学専攻 ・加速器科学専攻 ・放射光科学専攻 ・構造分子科学専攻 ・機能分子科学専攻		数物科学研究科を物理科学研究科(構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、核融合科学専攻、宇宙科学専攻)、高エネルギー加速器科学研究科(加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻)、複合科学研究科(統計科学専攻、極域科学専攻、情報学専攻)の3研究科に改組、数物科学研究科を廃止
	生命科学研究所 ・遺伝学専攻 ・分子生物機構論専攻 ・生理科学専攻		生命科学研究所を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組、学生受入
	(学生受入は平成元年4月)		教育研究交流センター及び教育研究情報資料センターを統合し、葉山高等研究センターに改組
	初代学長に長倉三郎(理学博士)就任	2005(平17)年4月	生命科学研究所分子生物機構論専攻を基礎生物学専攻に名称変更
1989(平元)年4月	文化科学研究科(地域文化化学専攻、比較文化化学専攻)を設置	2006(平18)年4月	物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科を博士後期課程から5年一貫制博士課程に改組、学生受入
	3研究科学生受入	2007(平19)年4月	先導科学研究科の生命体科学専攻、光科学専攻(博士後期課程のみ)を、生命共生体進化学専攻(5年一貫制博士課程)に改組、学生受入
1991(平3)年4月	教育研究交流センター設置	2008(平20)年4月	4代学長に高畑尚之(理学博士)就任
1992(平4)年4月	文化科学研究科に国際日本研究専攻、数物科学研究科に天文科学専攻及び核融合科学専攻設置、学生受入	2009(平21)年4月	メディア社会文化専攻の学生募集停止
1993(平5)年4月	数物科学研究科に極域科学専攻設置、学生受入	2010(平22)年3月	葉山キャンパスにおいて学融合推進センター棟(1,033m <sup>2</sup> )着工
1994(平6)年2月	神奈川県を(株)三井不動産から寄附により取得	4月	葉山高等研究センターを学融合推進センターに名称変更
3月	葉山キャンパスにおいて本部共通棟(4,205m <sup>2</sup> )着工	2011(平23)年1月	学融合推進センター棟竣工(現・共通棟別館)
6月	教育研究情報資料センター設置	2013(平25)年4月	情報基盤センターを設置
1995(平7)年2月	大学本部は葉山キャンパスに移転、本部共通棟竣工	2014(平26)年4月	5代学長に岡田泰伸(医学博士)就任
4月	2代学長に廣田榮治(理学博士)就任	2015(平27)年7月	情報基盤センター及び附属図書館を統合し、学術情報基盤センターを設置
1997(平9)年4月	先導科学研究科(生命体科学専攻)を設置(学生受入は平成11年4月)	2017(平29)年3月	メディア社会文化専攻を廃止(専攻設置期間:2001年4月1日~2017年3月31日)
1998(平10)年4月	先導科学研究科に光科学専攻設置(学生受入は平成11年4月)	4月	6代学長に長谷川眞理子(理学博士)就任
	数物科学研究科放射光科学専攻を物質構造科学専攻に名称変更	2018(平30)年3月	教育開発センターを設置
9月	葉山キャンパスにおいて先導科学研究科棟(3,060m <sup>2</sup> )着工	4月	学融合推進センターを廃止
			東京ランチを設置(東京都港区:東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター内)
		2022(令4)年3月	東京ランチを廃止
		2022(令4)年4月	統合進化科学研究センター設置

# 組織

Organization



## 役員

2022年4月1日現在

### 学長

理事(総務・情報・研究・国際)  
理事(教育・学生支援・企画・財務)  
理事(広報・社会連携)  
監事(事業)  
監事(財務)

長谷川眞理子  
蟻川謙太郎  
永田 敬  
小川雄二郎  
岡村 定矩  
稲垣 正人  
(以上、法人役員)  
永田 敬

### 副学長

### 文化科学研究科

研究科長  
地域文化学専攻長  
比較文化学専攻長  
国際日本研究専攻長  
日本歴史研究専攻長  
日本文学研究専攻長

伊東 貴之  
信田 敏宏  
南 真木人  
磯田 道史  
松木 武彦  
齋藤真麻理

### 物理学研究科

研究科長  
副研究科長  
構造分子科学専攻長  
機能分子科学専攻長  
天文科学専攻長  
核融合科学専攻長  
宇宙科学専攻長

青野 重利  
榊原 悟  
横山 利彦  
渡辺 芳人  
常田 佐久  
吉田 善章  
堂谷 忠靖

### 高エネルギー加速器科学研究科

研究科長  
副研究科長  
加速器科学専攻長  
物質構造科学専攻長  
素粒子原子核専攻長

本田 融  
橋本 省二  
紙谷 琢哉  
清水 伸隆  
西村 淳

### 複合科学研究科

研究科長  
副研究科長  
統計科学専攻長  
極域科学専攻長  
情報学専攻長

門倉 昭  
越前 功  
藤澤 洋徳  
平譯 享  
山田 誠二

### 生命科学研究科

研究科長  
副研究科長  
遺伝学専攻長  
基礎生物学専攻長  
生理科学専攻長

岩里 琢治  
平田たつみ  
花岡 文雄  
阿形 清和  
鍋倉 淳一

### 先導科学研究科

研究科長  
副研究科長  
生命共生体進化学専攻長

沓掛 展之  
印南 秀樹  
佐々木 顕

### 附属図書館

館長  
副館長

蟻川謙太郎  
柳生 修二

### 統合進化科学研究センター

センター長

印南 秀樹

### 教育開発センター

センター長

永田 敬

### 学術情報基盤センター

センター長

蟻川謙太郎

### 企画室

室長

永田 敬

### 事務局

事務局長  
総合企画課長  
総務課長  
財務課長  
学務課長

鎌塚 聡  
岡田 真季  
堀内 伸也  
飯塚 康  
梅野 健一

学長のリーダーシップによる大学運営を支援するため、全学の教育研究活動及び組織運営に関する企画・立案を行う本部の統括的機能の中核として設置されました。

「SOKENDAI 将来構想プロジェクト」として第4期中期目標期間に向けた将来構想の策定を支援するIR活動及び、情報の収集を実施します。

- ・ 本学の運営に係る企画・立案
- ・ 企画・立案・意思決定を支援するIR活動
- ・ 全学に関わる国際連携活動
- ・ 全学に関わる広報・社会連携活動
- ・ 大学本部の管理・運営に係る方針の策定

## 教育研究評議会

2022年4月1日現在

学長 理事(総務・情報・研究・国際) 理事(教育・学生支援・企画・財務)・副学長 理事(広報・社会連携)	長谷川真理子 蟻川謙太郎 永田 敬 小川雄二郎	高エネルギー加速器科学研究科加速器科学副専攻長 高エネルギー加速器科学研究科物質構造科学専攻長 高エネルギー加速器科学研究科素粒子原子核専攻 教授 複合科学研究科統計科学専攻長 複合科学研究科極域科学専攻長 複合科学研究科情報学専攻長 生命科学研究所遺伝学専攻長 生命科学研究所基礎生物学専攻長 生命科学研究所生理科学専攻長 先導科学研究科生命共生体進化学専攻長	道園真一郎 清水 伸隆 齊藤 直人 藤澤 洋徳 平譚 享 山田 誠二 花岡 文雄 阿形 清和 鍋倉 淳一 佐々木 顕
文化科学研究科長 物理科学研究科長 高エネルギー加速器科学研究科長 複合科学研究科長 生命科学研究所長 先導科学研究科長	伊東 貴之 青野 重利 本田 融 門倉 昭 岩里 琢治 沓掛 展之	文化科学研究科比較文化学専攻 教授 文化科学研究科日本歴史研究専攻 教授 高エネルギー加速器科学研究科加速器科学専攻 教授 高エネルギー加速器科学研究科加速器科学専攻 教授 高エネルギー加速器科学研究科物質構造科学専攻 教授 複合科学研究科極域科学専攻 教授 参与 参与 参与	吉田 憲司 西谷 大 小関 忠 波戸 芳仁 小杉 信博 中村 卓司 井上 章一 渡部 泰明 椿 広計
文化科学研究科地域文化学専攻長 文化科学研究科国際日本研究専攻長 文化科学研究科日本歴史研究専攻長 文化科学研究科日本文学研究専攻長 物理科学研究科機能分子科学専攻長 物理科学研究科天文科学専攻長 物理科学研究科核融合科学専攻長 物理科学研究科宇宙科学専攻長	南 真木人 磯田 道史 松木 武彦 齋藤真麻理 渡辺 芳人 常田 佐久 吉田 善章 堂谷 忠靖		

## 経営協議会

2022年4月1日現在

### ■学内代表者

学長 理事(総務・情報・研究・国際) 理事(教育・学生支援・企画・財務)・副学長 理事(広報・社会連携)	長谷川真理子 蟻川謙太郎 永田 敬 小川雄二郎
事務局長	鎌塚 聡

### ■学外有識者

叡啓大学 学長 花園大学 学長 甲南大学 文学部 教授 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所長 三菱地所株式会社 特別顧問 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所長 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 機構長 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 監事 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 機構長 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 機構長 大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構 機構長 公立大学法人国際教養大学 学長	有信 睦弘 磯田 文雄 井野瀬久美恵 喜連川 優 木村 恵司 國中 均 川合 眞紀 天野 玲子 木部 暢子 藤井 良一 山内 正則 モンテ・カセム
---	--

# 教育研究組織

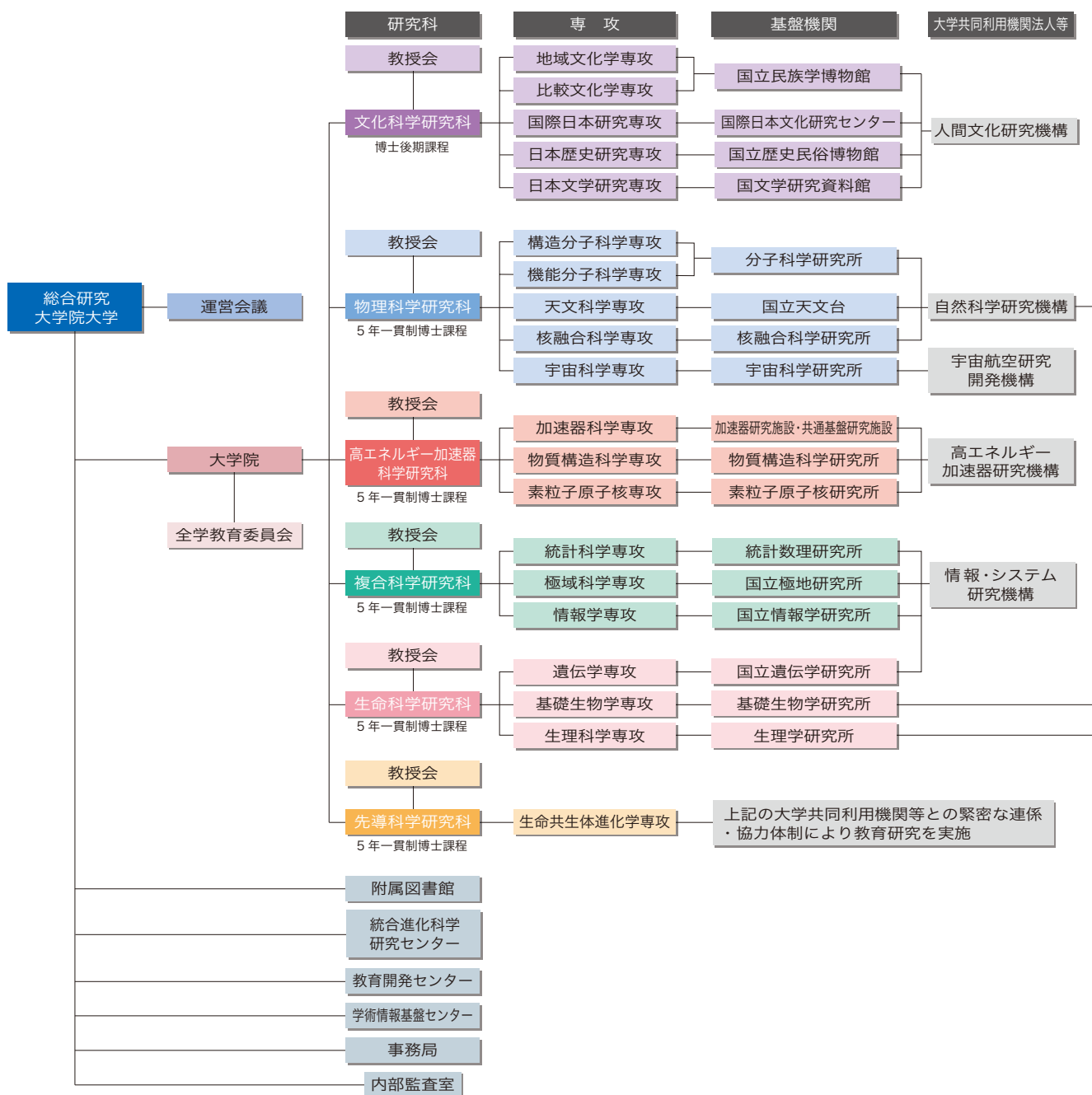
本学は、6研究科20専攻を設置しています。文化科学、物理学、高エネルギー加速器科学、複合科学、生命科学の各研究科は、4つの大学共同利用機関法人と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構が設置する18の研究所等を基盤機関とする19の専攻から構成されています。

先導科学研究科は、大学本部にあってこのような基盤機関を持たず、「進化学」と「科学と社会」に関する

教育・研究を通して総研大の理念を達成することを目指す、生命共生体進化学専攻の単一専攻研究科です。大学本部が行う総研大全専攻に向けた各種教育プログラムの運営にも協力しています。

また、全学共同教育研究施設として、附属図書館を設置しているほか、統合進化科学研究センター、教育開発センター及び学術情報基盤センターを設置しています。

## 2022年度教育研究組織



※【設置構想中】2023年4月に、6研究科20専攻から先端学術院への組織改編を予定しております。

# 文化科学研究科

School of Cultural and Social Studies

人間の文化活動並びに人間と社会、技術及び自然との関係に係る総合的教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた高度な研究者及び高度な研究能力をもって社会に貢献する人材の育成を目的としています。

## 文化科学研究科とは…

文化科学研究科は、総研大で唯一の文系の研究科です。国立民族学博物館を基盤とする地域文化学専攻・比較文化学専攻、国際日本文化研究センターを基盤とする国際日本研究専攻、国立歴史民俗博物館を基盤とする日本歴史研究専攻、国文学研究資料館を基盤とする日本文学研究専攻と、4つの基盤機関に5つの専攻が置かれています。

それぞれの機関において教育研究を行うだけでなく、文化科学研究科としても共同で活動を行っています。学術誌『総研大文化科学研究』の刊行、各機関持ち回りでの交流事業「総研大文化フォーラム」の開催、特別教育プログラム「学術資料マネジメントコース」の実施など、多彩な専門分野を活かして、総研大における文化科学研究を担い、発信しています。

なお、総研大の他の研究科は、5年一貫制を採用していますが、文化科学研究科は、博士課程後期（博士）のみから成っています。

### 研究科に設置されている専攻

- 地域文化学専攻
- 比較文化学専攻
- 国際日本研究専攻
- 日本歴史研究専攻
- 日本文学研究専攻



▶ 研究科長

**伊東 貴之**

▶ 専門

中国思想史、  
東アジア比較文化交渉史

## 地域文化学専攻 Department of Regional Studies

本専攻は、国立民族学博物館が基盤機関となり、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ及びオセアニアの諸地域に居住する人びとの文化と社会に関する教育研究を行っています。各々の地域の特性や歴史を考慮しながら、民族誌学的方法論に基づく文化と社会の記述、構造の解明、動態の把握を目指します。現地調査から得られたデータを分析し、理論化し、学術的な貢献と実践的な提言ができる人材を養成します。



2歳ラクダの毛刈り作業と焼印押し  
(中国内モンゴル自治区アラシャー盟/ウウユンガ撮影)



活発に議論する学生たち

### 分野

- アジア地域文化研究
- ヨーロッパ地域文化研究
- アフリカ地域文化研究
- アメリカ地域文化研究
- オセアニア地域文化研究

お問い合わせ 研究協力課研究協力係  
E-mail:souken@minpaku.ac.jp

## 比較文化学専攻 Department of Comparative Studies

本専攻は、比較社会、比較宗教、比較技術、比較言語、比較芸術、文化資源という6つの研究分野から構成されています。諸民族文化の比較研究により、各々に通底する普遍性の発見と理論的解明を目指します。基盤機関である国立民族学博物館の標本資料や映像音響資料、文献図書資料等を教育と研究に活かせることは本専攻の強みです。従来 of 文化人類学的研究方法に加えて、隣接諸科学の成果を導入し、新しい研究分野の開発を積極的に進めることができる人材を養成します。



国立民族学博物館の展示場  
恵まれた教育研究環境のもとで、新しい研究分野の開発を行っています



もと焼畑だった茶畑の茶摘み準備  
(静岡市/川上香 撮影)

### 分野

- 比較社会研究
- 比較宗教研究
- 比較技術研究
- 比較言語研究
- 比較芸術研究
- 文化資源研究

お問い合わせ 研究協力課研究協力係  
E-mail:souken@minpaku.ac.jp

## 国際日本研究専攻 Department of Japanese Studies

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学際的な日本研究 (Japanese Studies) をすすめるために、「教育・研究指導分野」としては、本専攻の特色である全教員の指導による、単一の「国際日本研究」を設けています。

共通必修科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「論文作成指導」を置き、国際的な立場から「日本研究」の理論的・方法論的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の専攻を横断しうる総合性を備えた研究者の育成を目指しています。



国際日本文化研究センター 図書館  
国内外を問わず、日本研究を行ううえで必要な図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集しています

### 講座

- 国際日本研究  
[教育・研究指導分野]  
国際日本研究/共通

お問い合わせ 研究協力課研究支援係  
E-mail:senkou@nichibun.ac.jp

## 日本歴史研究専攻 Department of Japanese History

国立歴史民俗博物館（歴博）を基盤機関とする本専攻では、日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学と関連分野の研究者が学際的な視点からの研究指導を行なっています。歴博の収蔵する膨大な資料や蓄積された情報、および自然科学的な分析を含む高度な研究設備を利用することが可能です。また現地での調査研究にも便宜を図っています。

資料に基づいた総合的な分析能力を持つ研究者、広い視野と国際的な感覚をもって社会に貢献できる人材の育成を目指します。



国立歴史民俗博物館の展示室を使った講義風景  
(第1展示室「ナウマンゾウ」前での講義)  
歴史・考古・民俗などについての約30万点の資料が収蔵されています

### 講座

#### ■ 日本歴史研究

[資料研究系]

歴史資料研究／資料論・展示研究／分析・情報科学

[社会史研究系]

社会論／技術史・環境史／地域文化論／国際交流論

集中講義 A・B・C・D／基礎演習 I・II／論文指導 I・II

お問い合わせ

研究協力課研究教育係

E-mail:soken@ml.rekihaku.ac.jp

## 日本文学研究専攻 Department of Japanese Literature

原本資料調査に基づいた、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とする本専攻では、国文学研究資料館の文化資源を活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

日本文学を中心に分野に広く目配りした体系的なカリキュラムによる授業を実施するとともに、複数の教員による指導体制のもとに研究指導を行い、高度な専門知識を有した研究者及び研究業績によって社会に貢献できる人材を育成します。



閲覧室で所蔵資料を見ながら行う授業  
重要文化財など原本2万点、古典籍や近代文献の収集マイクロ資料20万点、歴史史料502件(52万点)などを備える充実した教育研究環境です

### 講座

#### ■ 日本文学研究

[教育・研究指導分野]

共通科目／文学資源研究／文学形成研究／文学環境研究

お問い合わせ

総務課教育支援係

E-mail : edu-ml1@nijl.ac.jp



# 物理科学研究科

School of Physical Sciences

物質、宇宙、エネルギーに関する物理及び化学現象を対象とした学問分野において、広い視野を備え世界の第一線で活躍する研究者及び高度の専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的としています。

## 物理科学研究科とは…

物理科学研究科では、物質、宇宙、エネルギー、生命の物理科学に関する教育研究活動を行っています。研究科を構成する5つの専攻は、分子科学研究所、国立天文台、核融合科学研究所、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所の4つの大学共同利用機関等に置かれており、ここでは、通常の大学では持つことが困難な特殊装置や大型装置が設置され、大規模研究プロジェクトや国際的に最先端の研究プロジェクトが数多く推進されています。各機関では客員教員、博士研究員、留学生など多くの外国人研究者を受け入れ、国際的環境にもあふれています。このような優れた研究環境の下で、学生達は物理科学のフロンティアを体感し、未来の科学を自らの手で創造する気概を持って勉学研究にいそんでいます。

本研究科では、1人の学生に2人以上の教員が付く複数教員指導体制を取っており、マンツーマンの生きた研究指導が行われます。また、リサーチ・アシスタント（RA）制度、准研究員制度による学生への経済的支援も充実し勉学研究に集中できる環境が整っています。多くの意欲にあふれた学生諸君が本研究科に入学し、物理科学の未来を担う研究者として育ってゆくことを期待します。

### 研究科に設置されている専攻

- 構造分子科学専攻
- 機能分子科学専攻
- 天文科学専攻
- 核融合科学専攻
- 宇宙科学専攻



▶ 研究科長

**青野 重利**

▶ 専門

生物無機化学

## 構造分子科学専攻 Department of Structural Molecular Science

詳細な構造解析から導かれる分子および分子集合体の実像から物質の静的・動的性質を明らかにすることを目的として教育・研究を一体的に行います。従来の分光学および理論的な種々の構造解析法に加え、新しい動的構造の検出法や解析法を用いる総合的構造分子科学の教育・研究指導を積極的に推進します。



光電子分光法による電子状態測定

## 機能分子科学専攻 Department of Functional Molecular Science

物質の持つ多種多様な機能に関して主として原子・分子レベルでその発現機構を明らかにし、さらに分子および分子集合体の新しい機能の設計、創製を行うことを目的として教育・研究を一体的に行います。新規な機能測定法や理論的解析法の開発を含む機能分子科学の教育・研究指導を積極的に推進します。



高速液体クロマトグラフィーによるタンパク質の精製

## 天文科学専攻 Department of Astronomical Science

すばるや ALMA を初めとする最先端の観測装置やスーパーコンピュータを有する研究環境の下で、天文学および関連する分野の観測的・理論的、また装置開発に関わる研究を通じ、世界第一線で活躍できる研究者、先端技術の発展を担う専門家、および高度な専門知識を背景に科学の普及に努める人材の育成を目的とします。



ハワイ島マウナケア山頂のすばる望遠鏡

### 講座

#### 電子構造学

[教育・研究指導分野]

理論化学／構造光科学／基礎電子化学  
／極端紫外光分光学

#### 物質化学

[教育・研究指導分野]

物性化学／構造物性科学／構造生体分子  
科学／錯体物性化学

お問い合わせ

国際研究協力課大学院係

E-mail: r7139@orion.ac.jp

### 講座

#### 分子動力学

[教育・研究指導分野]

機能分子基礎理論／機能生体分子科学／  
生体分子科学／錯体触媒化学

#### 電子動力学

[教育・研究指導分野]

量子動力学／光化学／光物理／機能物性  
科学

お問い合わせ

国際研究協力課大学院係

E-mail: r7139@orion.ac.jp

### 講座

#### 光赤外線天文学系講座

[教育・研究指導分野]

地上天文観測／光・赤外線望遠鏡システム／  
惑星／太陽・恒星・星間物質／  
銀河・宇宙

#### 電波天文学系講座

[教育・研究指導分野]

地上天文観測／電波望遠鏡システム／  
太陽・恒星・星間物質／銀河

#### 共通基礎天文学系講座

[教育・研究指導分野]

精密計測／大気圏外観測／天文情報数値解  
析／地球・惑星・太陽／銀河・宇宙／重力波

お問い合わせ

研究推進課大学院係

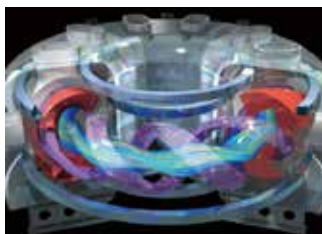
E-mail: daigakuin@nao.ac.jp

## 核融合科学専攻 Department of Fusion Science

未来のエネルギーといわれる核融合エネルギーの開発には、プラズマに関する実験・理論の両面からの研究が相互補完的に行われる必要があります。本専攻では、核融合科学の発展を目指して、核融合プラズマの実験を推進するために必要な実験法及び工学的応用技術に関する研究指導と、プラズマの複雑な挙動を解明するために必要なシミュレーション研究を中心とする研究指導を行います。



大型ヘリカル装置 (LHD) 真空容器



ジャイロ運動論粒子コードによる大型ヘリカル装置の炉心プラズマにおける微視的不安定性シミュレーション

### 講座

#### ■ 核融合システム

[教育・研究指導分野]

核融合システム・装置工学／プラズマ制御  
／プラズマ加熱／プラズマ計測

#### ■ 核融合シミュレーション

[教育・研究指導分野]

プラズマシミュレーション／粒子シミュレーション／磁気流体シミュレーション

お問い合わせ **研究支援課大学院連携係**  
E-mail : daigakuin@nifs.ac.jp

## 宇宙科学専攻 Department of Space and Astronautical Science

本専攻では、宇宙物理学、太陽系科学、そして宇宙工学に関する理論研究、観測データの解析、および研究開発の実践を通じて高度な教育研究指導を行います。それらの分野の主な特徴は以下の通りです。

- ・宇宙物理学：宇宙空間からの観測に基づき、宇宙の起源と構造、およびその進化を探る。
- ・太陽系科学：太陽系の「今と過去」を観測し、多様性の成因、さらに生命の材料や環境の起源・進化の理解へと迫る。



地球に帰還しカプセルを分離した「はやぶさ2」(想像図)  
© JAXA

- ・宇宙工学：宇宙物理学、太陽系科学における挑戦的活動を可能にし、宇宙開発の将来的発展を切り開く。  
更に、最先端かつ大規模な宇宙プロジェクトに身近に接することで、宇宙科学の豊かな学識のみならず宇宙プロジェクトの立案能力が涵養されます。

### 講座

#### ■ 宇宙探査理工学

[教育・研究指導分野]

宇宙探査理工学

#### ■ 宇宙観測科学

[教育・研究指導分野]

飛翔体天文学／飛翔体太陽系科学

#### ■ 宇宙工学

[教育・研究指導分野]

宇宙工学

お問い合わせ **科学推進部学生担当**  
E-mail : sokendai@ml.jaxa.jp

# 高エネルギー 加速器科学研究科

School of High Energy Accelerator Science

本研究科は高エネルギー加速器を用いて、自然界の各階層に存在する物質の構造・機能及びその原理を解明する実験的研究及び理論的研究、並びに加速器及び関連装置の開発研究を行い、自然科学の進展に寄与するとともに、社会に貢献する人材の育成を目的としています。

## 高エネルギー加速器科学研究科とは…

高エネルギー加速器科学研究科には加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻の三専攻が属し、それぞれの専攻は高エネルギー加速器研究機構（KEK）の加速器研究施設・共通基盤研究施設、物質構造科学研究所そして素粒子原子核研究所を基盤機関としています。

素粒子原子核専攻では、加速器を使用した素粒子原子核実験に参加することや理論研究を展開することで、宇宙の成り立ちや物質の究極の構造や原理について学び研究します。物質構造科学専攻では、分子や結晶構造などから生命体など多彩な形態で存在する種々の物質について、原理から応用までを含んだ幅広い立場から学び研究します。加速器科学専攻では、以上の研究を遂行するために必須な、陽子、電子・陽電子、ニュートリノ、X線、中性子、ミュオンなどの各種量子ビームを生成する高エネルギー加速器および関連する装置や技術について学び研究します。

本研究科では、KEKで遂行される研究活動を基礎に、全専攻が緊密に協力して幅広い分野の大学院教育を展開し、新しい時代の研究者養成を期しています。

## 研究科に設置されている専攻

- 加速器科学専攻
- 物質構造科学専攻
- 素粒子原子核専攻



▶ 研究科長

**本田 融**

▶ 専門

加速器科学、真空科学

## 加速器科学専攻 Department of Accelerator Science

### 究極の物質探求装置「加速器」を科学する

高エネルギー加速器は、最も単純な素粒子・原子核から原子・分子そして複雑精妙な生命体に至る、自然界の各階層のさまざまな構成要素を探究する強力な道具です。さらに近年、産業や医療分野など直接人々の役に立つ分野での活躍も目覚ましく進展しています。本専攻では、加速器性能の向上を通じた自然科学の推進を主目標に、



電子・陽電子線形加速器 (KEK / N.Toge)

加速器の原理研究や先端の加速器技術の開発など、理論・実験両面から加速器教育を実施します。あわせて、密接に関連する放射線科学、コンピュータ・サイエンス、超伝導技術、機械工学などの教育および研究を通じて、加速器科学の将来を中心的に担う人材の総合的育成を行います。

### 講座

#### ■ 加速器科学

[教育・研究指導分野]

ビーム物理学／加速器設計／高周波加速  
／電磁石／ビーム生成／ビーム計測／加  
速器制御／真空科学／放射線科学／超伝  
導低温工学／コンピュータ・サイエンス  
／機械工学

お問い合わせ

研究協力課大学院教育係  
E-mail: kyodo2@mail.kek.jp

## 物質構造科学専攻 Department of Materials Structure Science

### 放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子が拓くナノの世界

大型加速器から発生する放射光・中性子・ミュオン・低速陽電子の4つのビームプローブを用いて、物理・化学・生物・医学などの様々な分野にわたる物質構造科学研究を行います。とりわけ、世界最先端のビームの発生と加工に関する学理と応用開発研究、これらのビームプローブを用いた物質構造と機能に関する基礎と先進的応用の研究を行い、物質構造科学研究の将来を担い、またその発展に貢献する人材の養成を目指します。



放射光を用いたタンパク質の  
立体構造解析実験



東工大とトヨタ自動車が開発した世界最高(2011年当時)のリチウムイオン伝導率を示すLi10GeP2S12の結晶構造を放射光と中性子で決定した。これを機に、車載用全固体電池実現に向けて世界中で活発な研究が始まった。  
左から全体の結晶構造、骨格構造、リチウムイオン伝導経路を示す。右図上部からリチウムイオンが上下方向に非常に大きく熱振動していること、リチウムが超イオン伝導に関与していることが読み取れる。

### 講座

#### ■ 物質構造科学

[教育・研究指導分野]

放射光科学／低速陽電子科学／中性子科  
学／ミュオン科学／量子ビームを利用した  
物質・生命科学

お問い合わせ

研究協力課大学院教育係  
E-mail: kyodo2@mail.kek.jp

## 素粒子原子核専攻 Department of Particle and Nuclear Physics

### 宇宙と物質の謎にせまる

素粒子原子核物理学は、物質の究極の構成要素とそれらに働く力を明らかにしようとする学問です。本専攻は、エネルギーフロンティアを目指す実験から、大強度粒子ビームを使った精密測定によって素粒子・原子核の性質を明らかにする実験にいたる世界をリードする多彩な実験と、宇宙から超弦理論までを広くカバーする理論研究を背景に、これらの分野をリードする研究者の養成を目指しています。宇宙と物質の謎を解き明かす世界最先端の研究に参加してみませんか。



40倍のルミノシティ増強を目指して運転を開始したSuperKEKB加速器と Belle II測定器 ©KEK

### 講座

#### ■ 素粒子原子核理論

[教育・研究指導分野]

超弦理論／素粒子現象論／格子ゲージ  
理論／ハドロン原子核理論／宇宙物理理論

#### ■ 素粒子原子核実験

[教育・研究指導分野]

Bファクトリー／ハドロンコライダーエネルギーフロンティア／レプトンコライダーエネルギーフロンティア／ニュートリノ物理学／K中間子稀崩壊／ミュオン稀過程／ミュオン精密測定／原子核／不安定核／中性子基礎物理／実験的宇宙論／ビームダイナミクス／超伝導低温工学／計測システム技術

お問い合わせ

研究協力課大学院教育係  
E-mail: kyodo2@mail.kek.jp

S O K E N D A I

# 複合科学研究科

School of Multidisciplinary Sciences

地球、環境、社会等人間社会の変容に関わる重要課題を対象とした横断型の教育研究を行い、情報とシステムの観点からこれら課題の解決に貢献する研究能力又は研究開発能力を備えた次世代を担う研究者及び高度専門家の育成を目的としています。

## 複合科学研究科とは…

複合科学研究科では、複雑な自然現象、社会現象やその発現・機能・相互作用等を司るシステムについて、総合的あるいは分野横断的な視点から教育研究を行います。そして、そのことを通じて21世紀における人間社会の変容に関わる様々な重要課題に対して、情報とシステムの観点に立脚する学術研究を担ってゆく研究者や高度専門家の育成をめざしています。研究科を構成する統計科学、極域科学、情報学の各専攻は、本来、各々が横断型の研究分野を担っていますが、本研究科では、共通科目を設定するなど、これら専攻が緊密に連係することによって、教育研究の一層の充実を図っています。

研究対象は多岐にわたりますが、総合科学としての理念、研究におけるアプローチ、方法論は本研究科の根幹として共通するものです。そして、統計科学、情報学では、種々の事象に通底する蓋然性や複雑性を統計数理と情報によって解明し、また極域科学は地球の特異点たる極地での地球物理と生物の複雑系を総合科学として解き明かして行きます。こうした教育研究を通じて、さらに新たで、かつ、先導的・先端的な研究領域を融合しつつ体系化することにより、複合科学の一層の展開を志向しています。

### 研究科に設置されている専攻

- 統計科学専攻
- 情報学専攻
- 極域科学専攻



▶ 研究科長

## 門倉 昭

▶ 専門

磁気圏物理学

## 統計科学専攻 Department of Statistical Science

統計科学専攻の基盤機関である統計数理研究所は、赤池情報量規準を始めとして統計科学において多大な研究成果を上げており、我が国のみならず世界における統計数理研究の中心的な研究機関として、学術の発展に寄与してきました。

統計科学専攻は、現実社会からの情報ないし知識の抽出を、データに基づいて実現するために、理論と応用に関わる教育と研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する創造性豊かな研究能力を備えた人材の育成を目的としています。



統計科学スーパーコンピュータシステム  
HPE SGI8600

### 講座

#### 統計科学

[教育・研究指導分野]

モデリング／データ科学／数理・推論

お問い合わせ

総務課大学院係

E-mail: sokendai-toukei@t.rois.ac.jp

## 極域科学専攻 Department of Polar Science

極域の自然は、宙空圏、気水圏、地圏及び生物圏が相互につながり、全体が大きな極域環境システムを構成しています。極域科学は、この複雑な自然環境システムに係る幅広い研究分野の基礎に立ち、物理学的、化学的、生物学的諸過程とその相互作用を、地球環境システム全体との関係を視野に入れながら、究明することを目的としています。極域科学専攻においては、南北両極域の自然現象を中心に、全球的規模の環境をも視野に入れた教育・研究を行い、高度の研究能力を備え、フィールドサイエンティストとしての力量を持ち、幅広い地球科学研究に柔軟に対応できる創造性豊かな研究者を養成します。



南極のオーロラ  
(撮影 平成 22 年 3 月 修了 鈴木秀彦)

### 講座

#### 極域科学

[教育・研究指導分野]

極域宙空圏／極域気水圏／極域地圏／  
極域生物圏

お問い合わせ

総務課大学院係

E-mail: sokendai-kyokuiki@t.rois.ac.jp

## 情報学専攻 Department of Informatics

### 情報学を極める—未知への挑戦

情報学 (Informatics) は、情報に関する諸問題を広範かつ総合的に取り扱う学問分野です。伝統的な情報科学・情報工学にとどまらず、データ駆動型社会で中心的な役割を果たしているモデリングや人工知能、データサイエンス、さらには人間や社会を対象とする人文情報学・社会情報学をカバーする複合科学分野で、情報の表現、収集、流通、管理、処理、理解、利用、及びこれらを支える情報基盤技術を包含しています。本専攻では、国立情報学研究所の最先端の研究環境や学術情報基盤を活用し、多くの外国人研究者や留学生が集う国際色豊かな雰囲気の中で、基礎から実践まで幅広い能力と高度な専門性を身につけた研究者や高度専門家

を養成します。



VRを利用した人間と知能ロボットの対話に基づく学習実験の様子



16階ラウンジにおける交流の様子

### 講座

#### 情報学

[教育・研究指導分野]

情報基礎科学／情報基盤科学／ソフトウェア科学／情報メディア科学／知能システム科学／情報環境科学

お問い合わせ

企画課国際・教育支援チーム

E-mail: daigakuin@nii.ac.jp

# 生命科学研究科

School of Life Science

生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた次世代の生命科学研究を担う研究者の育成を目的としています。

## 生命科学研究科とは…

生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ広い視野を備えた次世代の生命科学研究を担う研究者の育成を目的としています。

生命科学研究科の大学院プログラムは生命科学の最前線を開拓する独立した創造力豊かな研究者の育成を目指しています。研究科を構成する専攻の基盤となっている3つの国際的に卓越した研究所（国立遺伝学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所）は生命科学の多様な分野の研究を推進しており、専攻の枠を超えた分野横断的な研究教育を目指しています。生命科学研究科は日本で最大数の生命科学系教員で構成されており、学生が複数の教員と相談しながら研究を進めることを可能とし、学生による独立した研究実施のために必要な研究環境を提供しています。各専攻所属の第一線の研究者による講義に加え、国内外の外部講師による最先端研究を紹介するセミナー、異分野融合の基礎となる教育プログラム、英語論文の書き方や英語での口頭発表・議論のための授業も含まれています。3専攻は毎年合同で研究発表会を開催して交流を深めているほか、インターネットを使った講義システムで他専攻の講義を聴講することも可能としています。生命科学を愛し、楽しみ、そして、その新しい扉を開く夢を持った学生を待っています。

### 研究科に設置されている専攻

- 遺伝学専攻
- 基礎生物学専攻
- 生理科学専攻



▶ 研究科長

**岩里 琢治**

▶ 専門

神経科学、分子生物学、  
マウス遺伝学



## 遺伝学専攻 Department of Genetics

遺伝学専攻は、生命現象を遺伝情報との関連の下に解明することを目的とし、国立遺伝学研究所に整備された多様な実験生物系統やDNAデータベースを活用して、分子遺伝学、細胞遺伝学、発生遺伝学、行動遺伝学、集団遺伝学、進化遺伝学、ゲノム生物学、生命情報学などの分野で、最先端の教育・研究を行います。また、大学院生が自ら「一人前の研究者に育つ」という目標を達成するため、「一人一人の大学院生を全教員で指導する」という理念のもとに大学院生教育を行っています。たとえば、独自の「プログレス制度」では、大学院生が指導教員以外の複数教員と



恵まれた環境で自分自身の研究に思う存分に打ち込むことができます



研究室では活発な議論が行われています

議論し様々なアドバイスを受ける機会が、半年に1回提供されます。充実した科学英語教育プログラムやリサーチアシスタント制度などによる経済支援も遺伝学専攻の大きな特長です。

### 講座

- 分子・細胞遺伝学
- 発生遺伝学
- 進化情報遺伝学
- ゲノム遺伝学

お問い合わせ

総務企画課 大学院担当  
E-mail: info-soken@nig.ac.jp

## 基礎生物学専攻 Department of Basic Biology

基礎生物学研究所を基盤機関とする本専攻は、次世代の生物学を担う研究者を養成します。細胞の構造・機能・増殖・分化、光合成、発生、行動に関わる脳神経のしくみ、環境に対する生体の応答、生物間の共生、進化などの諸問題について、様々なモデル生物・新規モデル生物を活用し、分子生物学、数理生物学、オミクスやバイオイメージングなどの最新実験技術を駆使して先端的の研究を行っています。基礎生物学研究所の充実した研究設備と環境、複数の教員による指導体制、RA制度による経済的サポート、EMBL（欧州分子生物学研究所）との国際交流事業など、特色ある修学環境を用意しています。意欲あふれる皆さんの参加をお待ちしています。



研究対象となっている様々なモデル生物および新規モデル生物

### 講座

- 細胞生物学
- 発生生物学
- 環境生物学
- 神経生物学
- 進化多様性ゲノム生物学
- 生殖発生学

お問い合わせ

国際研究協力課大学院係  
E-mail: r7139@orion.ac.jp

## 生理科学専攻 Department of Physiological Sciences

生理科学は、生体がはたらく仕組みを分子・細胞などの構成要素とシステムの両面から解き明かす学問であり、病態の理解に重要な基盤を提供します。ゲノム構造が明らかになり、ますます生理科学の重要性は増しています。

本専攻では、生体の基本構造である分子レベルから細胞レベル、さらにシステムとして構成される個体レベルに至るまで、生体機能を統合的に研究できるように教育・研究指導を行っており、生理学・脳神経科学を中心とした医学・生命科学の未来を切り開く研究者を養成します。



研究対象の細胞、組織、臓器と実験方法

### 講座

- 分子細胞生理学
- 生体機能調節学
- 基盤神経科学
- システム脳科学

お問い合わせ

国際研究協力課大学院係  
E-mail: r7139@orion.ac.jp

# 先導科学研究科

School of Advanced Sciences

本学創設の理念及び目的に基づき、学融合により従来の学問分野の枠を超えた国際的な学術研究の推進及び学際的で先導的な学問分野の開拓を行い、国際的に通用する高度な専門性と広い視野を備えた人材の育成を目的としています。

## 先導科学研究科とは…

先導科学研究科は、進化学と科学と社会分野の研究・教育を通して総研大の理念を達成することを目指す、生命共生体進化学専攻を単一専攻とする研究科です。進化学分野には、統合人類学、行動生物学、進化生物学、理論生物学の生物系4領域をおき、とくに生物の多様性と歴史性に焦点を当てています。一方、科学と社会分野では、科学を人間の社会活動のひとつととらえ、科学者の社会における役割や責任について深く探求しています。学生はそれぞれの専門分野で博士研究を行う一方、生物系の学生は社会分野の、社会系の学生は生物分野のテーマでそれぞれ副論文を書くことが求められます。分野間の垣根を徹底的に低くし、異なる専門分野の学生と教員が常に親密に交流することで広い視野を育む密度の高い教育を実現しています。これによって、人間・科学・社会に関する深くバランスのよい見識を備えた研究者・高度専門職業人を育成します。さらに、国内外の大学や研究機関と活発な共同研究を展開し、新しい研究領域の構築を先導することを目指しています。

### 研究科に設置されている専攻

- 生命共生体進化学専攻



▶研究科長

**沓掛 展之**

▶専門

動物行動学

# 生命共生体進化学専攻 Department of Evolutionary Studies of Biosystems

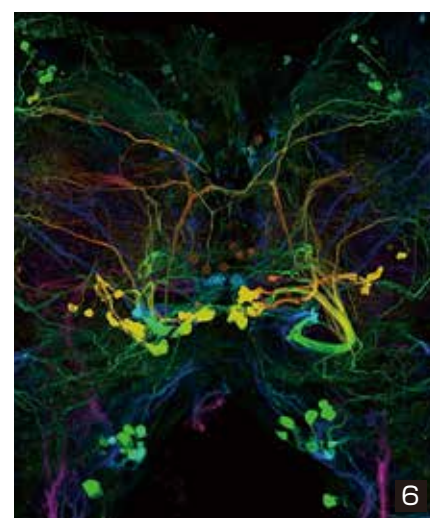
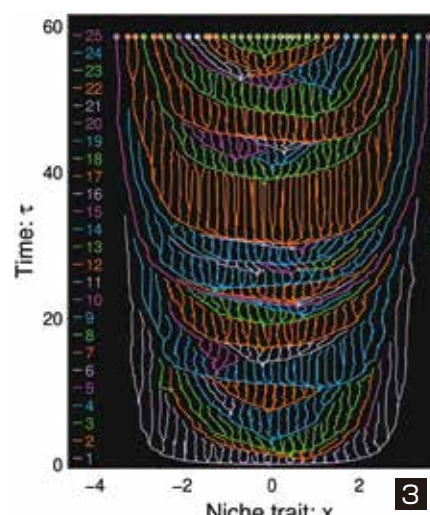
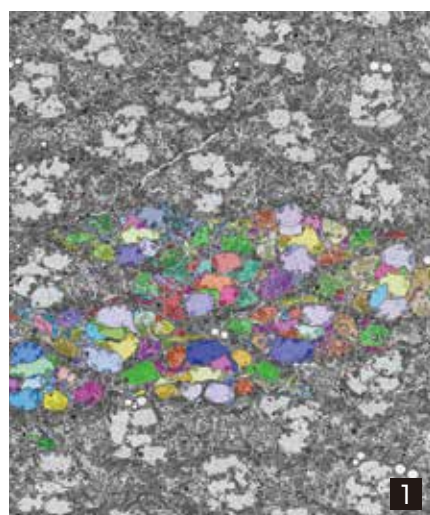
## 新しい生命観で見る未来

本専攻では、生命の時空間的な広がりを通して、生物、人間及び社会に関する専門知識及び研究能力の修得を基本として現代社会での科学と技術のあり方を考究する教育研究を行い、新しい生命観、人間観を切り拓くとともに、これからの持続可能な社会の構築に貢献する人材の育成を目的としています。この目的を実現するため、進化を軸にした生命現象の解明と、科学技術と社会との関係の探究を目指した教育・研究を通して、国際的に通用する高度な専門性と広い視野を備えた研究者を育成しています。

**分野**

- **生命科学**  
統合人類学／進化生物学／行動生物学／理論生物学
- **科学と社会**  
科学と社会

お問い合わせ **総務課先導科学研究科事務係**  
E-mail: hayamajimu@ml.soken.ac.jp



1 : アゲハ視覚中枢の電子顕微鏡写真  
2 : ダナムバレイ (マレーシア) の野生ボルネオオランウータン  
3 : 適応放散と絶滅の進化シミュレーション: なぜ「生きた化石」は存在する?

4 : 総研大で幼生から育てたミドリイシ属サンゴ2種  
5 : ゲノム配列を決定したニホンオオカミの頭骨 (写真: 石黒直隆博士提供)  
6 : コオロギ脳に存在するオクトパミン作動性神経細胞群

# 総研大の教育プログラム

Education program

## フレッシュマンコース

フレッシュマンコースは、主に新入生を対象とした集中講義です。本コースは、研究者として身につけるべき基礎的な知識やリテラシーを習得し、異分野交流を通じて学問の広がりを知ることを目的とした、総研大独自の全学プログラムです。2019年度ま

では、葉山キャンパスに全員が集い、合宿形式で実施していましたが、コロナ禍により、2020年度からはオンライン形式となっています。「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3つのセッションで構成されます。



- 2021年度(前学期・日本語コース)  
期 日：2021年4月6日(火)～4月9日(金)  
受講生数：68名
- 2021年度(後学期・英語コース)  
期 日：2021年10月5日(火)～10月8日(金)  
受講生数：31名
- 2022年度(前学期・日本語コース)  
期 日：2022年4月5日(火)～4月8日(金)
- 2022年度(後学期・英語コース)  
期 日：2022年10月4日(火)～10月7日(金)

## 「科学と社会」教育プログラム

本学における重要な使命は、高い専門性と幅広い視野をもった研究者や専門的職業人を育成することにあります。そのような研究者や知識人の育成においては、科学研究を社会活動の一つとして捉えたうえで、専門性の違いの意味、科学研究を支える社会的基盤、研究活動の社会的意義やインパクトを考える機会が不可欠です。先端科学研究科ではそのような問題意識から、「科学と社会」に関わる関連科目を開講し、

また年2回のフレッシュマンコースにおいて、1日半の「研究者と社会」の授業(講義とワークショップ)を日本語と英語で行っています。

## 研究科合同セミナー

### 総研大文化フォーラム／文化科学研究科

2021年12月4日～5日 オンライン

本フォーラムは総研大唯一の文系研究科である文化科学研究科が主催する公開の学術交流会であり、「文化」を共通の切り口として、さまざまな専門分野を持つ学内外の教員と学生の学際的な交流の機会を提供しています。

学術的な研究発表の場としても機能することから、本学学生の研究活動、成果そのものや、研究発表スキルを指導する教育的機能をも有し、文理に開かれた学術交流の場となっています。

また、学生が事業の企画運営に参画することにより、教員と学生企画委員の協働による事業運営を通じて、

学生の企画力を活かしながら、事業運営のマネジメントにおいて教員が指導助言等のサポートを行うことにより、自立した研究者養成に繋がっていきます。



### 複合科学クロストーク／複合科学研究科・生命科学研究科(遺伝学専攻)

2021年12月20日、2022年2月16日 オンライン

情報・システム研究機構が主催する「若手研究者クロストーク」を複合科学研究科として共催し、複合科学研究科と遺伝学専攻を中心に、幅広い分野からの総研大の教職員・学生をあつめ、グループ討議を実施しています。

複数専攻の外国人を含む教職員・学生がグループ討議や異種の話題が並ぶ研究発表を体験することにより、高い専門性と広い視野並びに国際的通用性が徐々

に醸成されていくことが期待されています。



### 生命科学リトリート／生命科学研究科・先導科学研究科

2021年12月22日～23日 オンライン

生命科学リトリートは、総研大の生物学を主とする専攻の教員と学生が一堂に会し学術的交流を深める事で、生物学をより大きな視点で捉えこれからの生物学の発展に貢献できる人材の教育を目的としています。

会議を英語で行うことで、国際通用性の向上を図り、学生委員の企画と進行のもと、学生の研究発表(口頭、ポスター)と意見交換会を行っています。学生委員はプログラムの企画立案する事で企画力を養い、また学生の研究発表の練習の場としても機能する事が期待されています。

2021年度も前回に引き続きオンライン開催となりましたが、例年より多い参加者(学生教員合わせて

140名)があり、オンラインの利点も活かした企画となりました。



## SOKENDAI 特別研究員について

「SOKENDAI 特別研究員制度」は、基礎研究・学術研究の将来を担う人材を育成するため、下記の2つのカテゴリーにおいて、特に優秀な学生をSOKENDAI 特別研究員として採用し、博士後期

課程相当の3年間に亘り生活費相当額及び研究費を支給するとともに、学位取得後のキャリアパスの形成を支援する制度です。

### ○分野型：

情報・AI分野及び大学共同利用機関等が保有する最先端の研究施設を利用した「大規模先端科学」分野の研究を行う学生を支援するもの。

### ○挑戦型：

既存の研究分野や研究科・専攻等の組織の枠にとらわれない独創的・挑戦的な研究を主体的に行う学生を支援するもの。

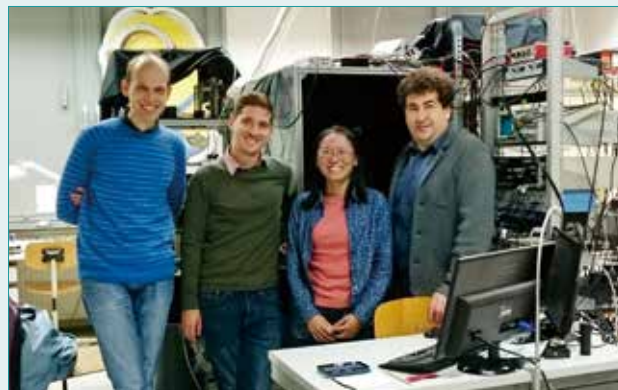
#### 採用実績（2021年度）

分野型	9名（情報・AI分野：3名、大規模先端科学分野：6名）
挑戦型	10名

## SOKENDAI 研究派遣プログラム

本事業は、本学の教育理念である「高い専門性」「広い視野」「国際的な通用性」を持つ研究者人材の育成を推進するため、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長

期の共同研究等に主体的に取り組む本学学生に対して必要な経費を支援することを目的としています。



#### 2021年度

##### 区分2（海外長期）

派遣学生数：2名

##### 区分3（国内長期）

派遣学生数：3名

## SOKENDAI 研究論文掲載費等助成

本学に所属する学生の研究活動の成果である研究論文の掲載について、助成上限額の範囲において、投稿・掲載等に必要な経費の全額又は一部

支援を実施しています。2021年度は15件の助成を行いました。

## ▶ 社会へ向けた取組

### 地域社会へ向けた事業

本学の教育・研究の成果等を広く社会に公開し、地域社会との交流を深めることを目的として、さまざまな講演会・イベント・シンポジウム等を実施しています。

2021/6- 2022/2/22	社会連携事業 高専連携を主体とした社会連携事業 本田 融 (加速器科学専攻教授)
2021/11/7,14,21	社会連携事業 おうちで天文・宇宙 オンライン講演会 ※オンライン開催 生田 ちさと (宇宙科学専攻 准教授)
2021/11/14-16	社会連携事業 未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2021 大石 雅寿 (天文科学専攻 教授)
2022/1/19	社会連携事業 小型宇宙線検出器を用いた科学実験教育・アウトリーチ活動「探Q」 三原 智 (素粒子原子専攻 助教)
	横高アカデミア 本学は、地域における次世代教育の支援などを目的として、神奈川県立横須賀高等学校と連携して、「横高アカデミア」の事業を行い、講師を派遣しています。同校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されています。

### 総研大先導科学研究科 学術講演会

先導科学研究科の先端的な研究活動の成果のなかから、「生命・進化」に関連したテーマを取り上げた学術講演会を毎年開催し、研究の最前線を社会に伝え、

また、地域社会との交流を深めることを目的として実施しています。

※2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりました。

#### ■ 2019年11月3日(日・祝)

講演

「チョウの見る世界をさぐるー昆虫視覚研究の最前線」  
先導科学研究科専攻・教授・蟻川謙太郎



講演

「ツルの舞にこめられた秘密：動物行動学の試み」  
先導科学研究科・特別研究員・武田浩平



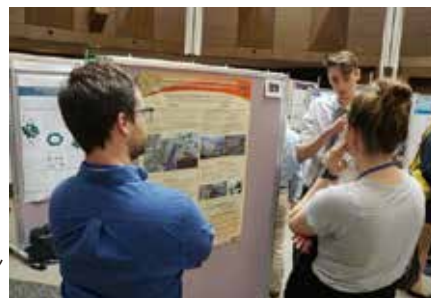
お問い合わせ

総務課 先導科学研究科事務係

TEL : 046-858-1577, 1595 FAX : 046-858-1544 E-mail : office\_sendou@ml.soken.ac.jp

### JSPS サマー・プログラム

欧米諸国の博士号取得前後の若手研究者を、本学が(独)日本学術振興会と連携し、全国の大学共同利用機関や大学等の協力のもとに、夏期2ヶ月間受入れるプログラムです。



2019年度オリエンテーションプログラムの様子

## プレスリリース

2021年度は次のプレスリリースを行い、各メディアにも取り上げられました。

- 多波長同時観測でさぐるM87巨大ブラックホールの活動性と周辺構造  
—地上・宇宙の望遠鏡が一致団結—



- 観測史上最古、124億年前の宇宙に渦巻き構造を持つ銀河を発見



- 港川1号人骨のミトコンドリアDNAの解析で過去から現在までの日本列島人の遺伝的関係性を解明



- 東南極リュツォ・ホルム湾沿岸でのGNSS観測と地殻変動の検出



- 江戸時代の人骨から口腔内細菌叢を解析  
—歯石DNAから江戸時代の口腔内細菌群を特定—



- 「ネアンデルタール型」ヒト成長ホルモン受容体は、先史時代の食糧が少ない状況下で有利にはたっていたかもしれない



- 魚の骨から復元する過去の漁撈活動と気候変動



- 免疫やワクチンからの逃避を繰り返す病原体は高い病原性を進化させる



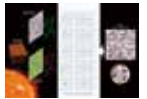
- 東北大学・東京工業大学・総合研究大学院大学・東京理科大学とWiley、日本発の研究成果のオープンアクセス化の促進に関する覚書に署名



- アゲハチョウの脳にある多彩な"色"感受性神経



- 深層学習で乱流の隠れた構造に迫る  
—太陽とプラズマの乱流研究に新たな展開—



- 世界最大の花・ラフレシアの新産地とその生態の解明  
～地域社会による生息域内保全の促進に期待～



- 仲良ししか触れない：野生ニホンザルにおいて他個体のアカンボウに接触する行動の機能を解明



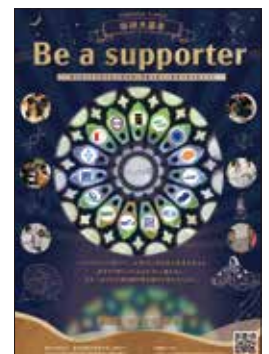
- 一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンスの設立について



## 総研大基金

本学で学ぶ学生の支援等を目的とし総研大基金を設立しました。詳細については本学ウェブサイトをご覧ください。

総研大基金について：<https://www.soken.ac.jp/donation/kikin/>



## 総研大ニュースレター

本学で行っている教育研究活動を発信する、総研大ニュースレターを刊行しています。各キャンパスで行われているイベント情報の紹介や報告、プレスリリースされた研究成果、受賞等の情報を掲載し、本学ウェブサイトで公開しています。





# 「進化」を軸にした国内唯一の研究拠点



## ▶ 統合進化科学研究センター

Research Center for Integrative Evolutionary Science

統合進化科学研究センターは、国内外に開かれた共同研究を通して、広い視野からの生物進化学の研究、および科学活動の俯瞰的研究を推進し、もって人間社会の諸問題の解決をめざす新しい研究分野としての“統合進化科学”を開拓することを目的としています。

### 研究活動

- ・ 進化を基軸にした生物学の知識体系の構築
- ・ 進化学研究で得られた知見の他分野への応用
- ・ 科学活動の俯瞰的研究
- ・ 学際的知見を基盤とした社会問題解決への取り組み

### その他の活動

- ・ 大学院教育、研究者育成
- ・ 共同研究
- ・ アウトリーチ

2022年4月、葉山キャンパスに「統合進化科学研究センター」が設立されました。「進化」を軸にした国内唯一の研究拠点として国内外の研究機関と連携し、「統合進化科学」という新たな学術領域の創出を目指します。

総研大の本部のある葉山キャンパスでは、これまで先導科学研究科において「進化」を軸とした教育研究を行ってきました。「進化」というと、生物の進化が思い起こされますが、技術も文化も社会も、進化します。

生物38億年の歴史の中で、生き物のシステムがどのように作られ変遷していったのか、また、人間の諸活動(社会、心理、言語、文化など)がどのように変化していったのか、さらには、人新世における地球規模の諸問題がどのように進行し、どのような解決策がありえるのか、といったことも、進化という視点で俯瞰的に考えることができます。

2022年4月に葉山に設立された統合進化科学研究センターでは、上述のように「進化」という概念をとらえなおし、生物学の知識体系の発展のみならず、進化学の知見を人間理解と社会問題解決へ取り込んだ「統合進化科学」という新分野の創出を目指します。



統合進化科学研究センター長  
印南秀樹 教授

## ▶ 教育開発センター

The Center for Educational Development

優れた研究者に求められる「高い専門性」、「広い視野」、「国際的な通用性」を兼ね備えた人材の育成が本学の目標です。そのためには各専攻における専門教育に加えて、研究者としての素養を高めるための全学教育も欠かせません。

本センターは、全学教育の実施・支援や、本学の教育に関する調査分析等を通して、本学が理念として掲げる研究者人材の育成に貢献します。

### 全学教育事業の実施・支援

- ・「フレッシュマンコース」の実施
- ・SOKENDAI 研究派遣プログラムの実施支援
- ・国際共同学位プログラムの実施支援
- ・CEDセミナーの実施

### 学生の活動及び学習ニーズに即した支援

学生の学習・研究活動・就職活動・ネットワーキングに関する支援

### 教育活動・教育事業の自己点検・評価・分析の支援

- ・全学教育及び専門教育の内部質保証活動の支援
- ・学生の研究活動・経験に関する調査・分析

## ▶ 学術情報基盤センター

The Center for Academic Information Services

学術情報基盤センターは、本学の学術情報基盤に関する一元管理を行うことにより、学術情報の利用と発信の円滑化に必要な活動を行うと共に、情報基盤の整備充実を進め、全学の教育研究活動等を支援することによって、最先端の教育研究の進展に寄与するため、設立されました。

### 情報基盤整備推進部

情報基盤整備推進部は、本学の情報環境を整備し各種情報サービスを提供するとともに、情報メディアの利用促進を支援する学内拠点施設です。本学を構成する基盤機関との連携のもと全学的な情報環境を構築するとともに、葉山本部等に設置された基幹情報ネットワークおよび情報システムの管理・運用を行っています。

#### 総研大TV会議システム

全国に展開する大学共同利用機関、独立行政法人などの基盤機関および大学本部(葉山キャンパス)を結び、会議や委員会などの大学活動を支援しています。

#### 総研大クラウド

プライベート・クラウドとして学内教育連携の場を提供するとともに、学外への情報発信や学術交流ネットワーク構築の場として利用しています。

## 本部図書館

本部図書館は、本学が目指す高度な教育研究の展開と先導的学問分野の開拓に資するため、多様な学術資料の収集・整理・公開を行っています。葉山キャンパスの教員・学生は24時間利用可能となっており、各研究科・専攻に共通する基本的図書および先導的・学際的研究分野に関連する専門図書・雑誌を収集・配架しており、館内設置機器による映像音響資料の利用も可能となっています。そのほか、本学が授与した博士の学位論文、本学が出版した図書、雑誌、葉山キャンパスの教員・学生が発表した学術論文等がインターネットを通じて無料で閲覧できる機関リポジトリ、本館が所蔵する図書・雑誌のOPAC(オンライン所蔵目録)なども提供しています。これらの資料、データは、本学の教員・学生が利用できるだけでなく、近隣住民など一般の方にも開放されており、研究資料の収集や学習スペースとしても有効に活用されています。また、神奈川県立図書館の窓口の機能も有しており、神奈川県立図書館所蔵の図書の教職員及び周辺市民への貸出しを行っています(KL-NETサービス)。更に2015年度より国立国会図書館の窓口として、国立国会図書館が所蔵するデジタル資料を閲覧できるサービスも開始しました。



### 図書館で利用可能な学術情報資料数

図書：(和)約23,300冊  
(洋)約24,800冊  
雑誌：(和)約140誌  
(洋)約330誌  
電子ブック：約145,300冊  
電子ジャーナル：約5,460誌  
機関リポジトリ：約5,140件

2022.4.1 現在

### 附属図書館

附属図書館は、大学本部に置く図書館(本部図書館)と機構等法人及び基盤機関が設置する図書館及び図書室(基盤図書館等)から構成されています。附属図書館は、電子資料を収集、整理及び蓄積するとともに、本部図書館及び基盤図書館等との緊密な関係及び協力の下に、学術情報利用の円滑化に必要な活動を行うことによって、本学の教育研究活動を推進することを目的とし、全国に分散している基盤機関の教員・学生が共通に使えるよう、電子ジャーナル及び電子ブック、世界最大級の書誌・引用文献データベース「Scopus」を導入し、利用に供しています。

お問い合わせ

学術情報基盤事務室図書係

TEL：046-858-1528、1540 FAX：046-858-1607 E-mail：lib@ml.soken.ac.jp

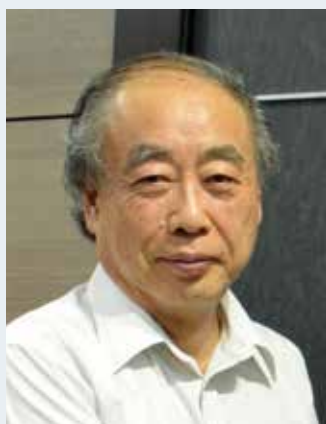
### 総研大全学で利用できる電子ジャーナル 🔍

BioOne/JSTOR/Science Direct/Springer-LINK/Wiley-Blackwell/GeoScienceWorld/Scopus(書誌・引用DB・情報検索サービス)

※上記以外に葉山キャンパス内向けの電子ジャーナルも提供しています。 <http://www.lib.soken.ac.jp>

## — 本学のノーベル賞受賞者 —

高エネルギー加速器科学研究科 名誉教授



**小林 誠**

総合研究大学院大学名誉教授／  
高エネルギー加速器研究機構  
特別栄誉教授

2008年  
「CP対称性の破れの起源の発見」により  
**ノーベル物理学賞 受賞**

1999年4月～2004年3月：数物科学研究科 教授  
2004年4月～2006年3月：高エネルギー加速器科学研究科 教授  
2003年4月～2004年3月：数物科学研究科 素粒子原子核専攻長  
2004年4月～2006年3月：高エネルギー加速器科学研究科  
素粒子原子核専攻長

2008年：文化勲章受章

生命科学研究所 名誉教授



**大隅 良典**

総合研究大学院大学名誉教授／  
基礎生物学研究所名誉教授

2016年  
「オートファジーの仕組みの解明」により  
**ノーベル生理学・医学賞 受賞**

1996年10月～2009年3月：生命科学研究所 教授  
2008年 4月～2009年3月：生命科学研究所長  
2006年：日本学士院賞受賞  
2016年：文化勲章受章

# 受賞者

## ■勲章・褒章（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受章年
蟻川 謙太郎 教授	統合進化科学研究センター	2022 紫綬褒章
長谷部 光泰 教授	生命科学研究所・基礎生物学専攻	2022 紫綬褒章
大森 賢治 教授	物理学研究科・機能分子科学専攻	2021 紫綬褒章
小松 和彦 名誉教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2020 瑞宝重光章
永嶺 謙忠 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科	2020 瑞宝中綬章
小平 桂一 名誉教授（元学長）	数物科学研究科・天文科学専攻	2017 瑞宝重光章
川合 眞紀 教授	物理学研究科・機能分子科学専攻	2017 紫綬褒章
大隅 良典 名誉教授	生命科学研究所・基礎生物学専攻	2016 文化勲章
太田 朋子 名誉教授	生命科学研究所・遺伝学専攻	2016 文化勲章
末松 安晴 名誉教授	複合科学研究科・情報学専攻	2015 文化勲章

## ■文化功労者（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年・受賞分野
石毛 直道 名誉教授	国立民族学博物館	2021 文化人類学
川合 眞紀 所長	分子科学研究所	2021 表面科学
鈴木 厚人 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科	2021 素粒子物理学
堀田 凱樹 名誉教授	生命科学研究所・遺伝学専攻	2020 行動遺伝学・生物物理学・神経遺伝学
猪木 武徳 名誉教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2019 経済学
小松 和彦 教授	文化科学研究科・国際日本研究専攻	2016 民俗学
大隅 良典 名誉教授	生命科学研究所・基礎生物学専攻	2015 細胞生物学

## ■日本学士院賞（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年	受賞理由
川合 眞紀 教授	物理学研究科・機能分子科学専攻	2020	単一分子分光を用いた固体表面上での化学反応の研究
喜連川 優 教授	複合科学研究科・情報学専攻	2020	大規模高性能データベースシステムの理論と応用に関する先駆的研究
常田 佐久 教授	物理学研究科・天文科学専攻	2019	太陽観測衛星による太陽電磁流体现象の研究
永嶺 謙忠 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・物質構造科学専攻	2019	ミュオンラジオグラフィの開拓と大規模構造体の非破壊的研究
高崎 史彦 名誉教授	高エネルギー加速器科学研究科・素粒子原子核専攻	2017	B中間子系におけるCP対称性の破れの研究

## ■日本学士院学術奨励賞（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年	受賞理由
鯉淵 道紘 准教授	複合科学研究科・情報学専攻	2020	並列計算機システムの相互結合網へのランダム性導入に関する先駆的研究
石崎 章仁 教授	物理学研究科・構造分子科学専攻	2019	実時間量子散逸系理論の構築とその光合成初期過程解明への応用

## ■日本学術振興会 育志賞（2015年以降）

氏名	研究科・専攻	受賞年	研究テーマ
飯屋園 志帆	先導科学研究科・生命共生体進化化学専攻	2017	ミドリイシ属サンゴの蛍光タンパク質の遺伝子基盤と役割の解明
北村 大地	複合科学研究科・情報学専攻	2016	非負値行列因子音源モデルに基づく音楽信号の多チャネルブラインド音源分離

## SOKENDAI 賞

SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得する学生を表彰するものとして、2018年度に創設しました。

### ■第7回 SOKENDAI 賞 受賞者一覧 : 2021年9月28日（水）

氏名	研究科・専攻	学位論文題目
単 荷君	文化科学研究科 国際日本研究専攻	近代青島の都市空間の変容－日本的要素の連続と断絶を中心に－
LEE JIHYUN	物理学研究科 機能分子科学専攻	有機太陽電池における電荷再結合の研究
RAMNARONG WANISON	高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻	伝導冷却超伝導磁石への応用を目指した極低温パラレルヒートパイプシステムの研究

### ■第8回 SOKENDAI 賞 受賞者一覧 : 2022年3月24日（木）

氏名	研究科・専攻	学位論文題目
児島 啓祐	文化科学研究科 日本文学研究専攻	『愚管抄』の学問史的研究
伊藤 慧	物理学研究科 天文科学専攻	Star Formation Activity of Galaxies and its Relationship to Environment in Distant Universe
鈴木 雄太	高エネルギー加速器科学研究科 物質構造科学専攻	機械学習を用いた結晶構造の分析と物質空間の可視化





## 博士の学位授与状況（研究科別）

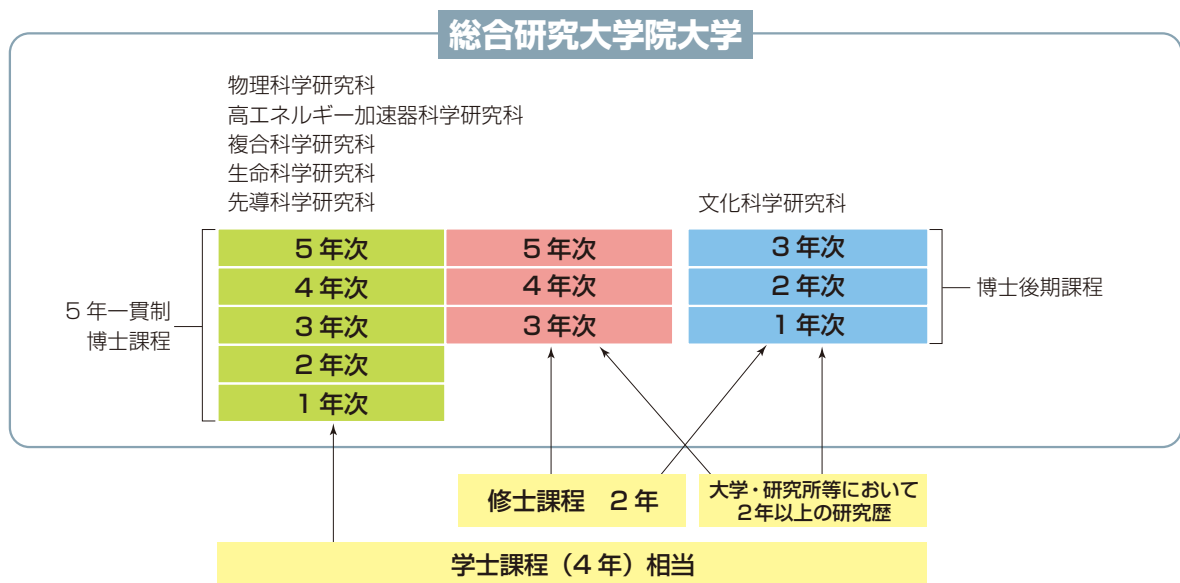
研究科	入学定員	学位名	1991年度から2016年度計	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	計
文化科学研究科	(15)	文学	111 [30] (47)	4 (1)	(2)	5 (1)	5 [2] (2)	5 [3] (1)	130 [35] (54)
		学術	75 [14] (31)	4 [1] (3)	4 (1)	2 (1)	3 [1] (2)	8 [1] (1)	96 [17] (39)
物理科学研究科	10(15)	学術	61 [1] (11)	1			1 [1]	1	64 [2] (11)
		理学	398 [17] (35)	15 [1]	11 (1)	10	16 [1]	14	464 [19] (36)
高エネルギー 加速器科学研究科	9(※)	工学	78 [4] (17)	4	4	5 [1]	6 (1)	3	100 [5] (18)
		学術	25 [1] (9)	1	1	2	1	2	32 [1] (9)
		理学	163 [3] (13)	4 (1)	8	12 (1)	6 (1)	8	201 [3] (16)
複合科学研究科	8(10)	工学	50 [1] (23)	1	2	3	3	5 (1)	64 [1] (24)
		統計学	36 [2] (3)	4 [1]	5 [1]	5 [1]	4 [1]	7	61 [6] (3)
		学術	83 [5] (10)	1 [1]					84 [6] (10)
		理学	59 [0] (6)	2	3		3	2	69 [0] (6)
生命科学研究所	9(18)	情報学	141 [13] (0)	7	11 [2]	14 [3]	17 [1]	16	206 [19] (0)
		学術	36 [1] (2)					1	37 [1] (2)
		理学	550 [30] (39)	20 [3]	18 [3] (1)	12 [3]	19 [2] (1)	7	626 [41] (41)
先端科学研究科	5(1)	脳科学						1	1 [0] (0)
		医学	10 [0] (0)	1	3 [2]	1			15 [2] (0)
		学術	15 [5] (1)						15 [5] (1)
5(1)	理学	52 [7] (2)	5 [1]	5	1	3	2	68 [8] (2)	
	工学	5 [1] (0)						5 [1] (0)	
合計	41(59)		1948 [135] (249)	74 [8] (5)	75 [8] (5)	72 [8] (3)	87 [9] (7)	82 [4] (3)	2338 [172] (272)

- ・入学定員は2022年度の数字（括弧の数字は博士後期課程または博士課程3年次編入学の定員。高エネルギー加速器科学研究科の※は定員設定はないが若干名受入。）
- ・（ ）は論文博士で外数。
- ・[ ]は単位取得退学後、所定の期間内に申し学位を取得した者で、内数。
- ・物理科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、複合科学研究科は2004年3月31日まで数物科学研究科。

## 修了の要件

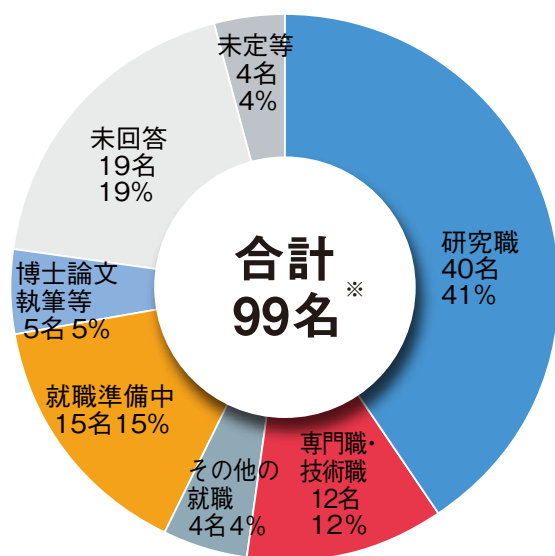
本学に3年(5年一貫制博士課程は5年)以上在学し、各専攻で定める所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することが修了の要件です。

なお、優れた研究業績を上げた者は在学期間を短縮して修了することができます。





## 2021 年度 課程修了者及び単位取得退学者の進路状況 (職種別)



※ 99 名内訳  
 課程を修了し学位を取得した者：78 名  
 修了に必要な単位を取得し退学した者：21 名

### 大学・研究所等

名古屋大学  
 高エネルギー加速器研究機構 (KEK)  
 岡山大学  
 明治大学  
 Korean Advanced Institute of Science and Technology (KAIST)  
 Hoshi University  
 蔚山科学技術大学校  
 Texas A&M University  
 Tsung-Dao Lee Institute  
 Australian National University  
 文部科学省  
 核融合科学研究所  
 東京大学  
 理化学研究所  
 国立遺伝学研究所 (NIG)  
 九州大学  
 Hefei University of Technology  
 National Institute of Health (NIH)  
 京都大学  
 兵庫教育大学  
 オックスフォード大学  
 沖縄科学技術大学院大学  
 国立情報学研究所 (NII)  
 東京工業大学  
 生理学研究所  
 群馬県庁

### 民間企業・公益法人等

MOTIV RESEARCH CO.  
 株式会社日立製作所  
 株式会社しびつくばわー  
 中外製薬株式会社  
 ソフトバンク株式会社  
 株式会社ソニーインタラクティブエンタテインメント  
 株式会社デンソー  
 KINTO テクノロジーズ株式会社  
 HUAWEI  
 トヨタ自動車株式会社  
 大塚製薬株式会社  
 協和キリン株式会社  
 ファーストアカウンティング株式会社  
 東芝インフラシステムズ株式会社  
 中島ソフトウェアエンジニアリング株式会社  
 Space company in Tokyo  
 株式会社とめ研究所  
 日本プロセス株式会社  
 株式会社マリン・ワーク・ジャパン



## 大学間交流協定

本学では、大学間の学術交流を通じて、大学院における教育・研究活動のより一層の充実をはかるため、国内外の大学と学術交流協定を締結しています。

### 海外の大学等との交流協定

国・地域	協定機関 / 対応部局	本学対応部局	締結日
中国	蘭州大学	全研究科	2019年11月12日
韓国	科学技術総合大学院大学校	全研究科	2005年5月25日
フランス	エコール・サントラル・ナント	全研究科	2019年11月8日
フランス	パリ・サクレ大学	全研究科	2020年2月28日
ロシア	ノヴォシビルスク大学	全研究科	2020年3月12日
ノルウェー	ノルウェー北極大学	全研究科	2019年11月7日
イタリア	ボローニャ大学	全研究科	2020年7月20日
インドネシア	ガジャ・マダ大学文化学部	文化科学研究科	2019年12月27日
米国	ハワイ大学マノア校	文化科学研究科	2018年2月28日
中国	西南交通大学物理科学与技术学院	物理科学研究科	2020年5月20日
タイ	チュラロンコン大学理学部	物理科学研究科	2010年4月1日
タイ	カセサート大学理学部	物理科学研究科	2011年3月29日
タイ	ヴィヂャシリメディー科学技術大学院大学	物理科学研究科	2018年9月5日
マレーシア	マラヤ大学理学部	物理科学研究科	2014年3月24日
ドイツ	イエナ大学固体物理学研究所	物理科学研究科	2020年7月17日
ロシア	サンクトペテルブルク工科大学	物理科学研究科	2019年1月23日
ジョージア	ジョージア工科大学	高エネルギー加速器科学研究科	2019年2月13日
韓国	高麗大学医学部	生命科学研究科	2019年11月18日
台湾	国立台湾大学生物資源農学院	先端科学研究科	2017年12月28日
ベトナム	ベトナム国立自然科学大学生物学部	先端科学研究科	2017年2月8日
ベトナム	ベトナム国立農業大学動物科学学部	先端科学研究科	2017年2月15日
ベトナム	ベトナム社会科学院考古学研究所	先端科学研究科	2017年2月20日
パングラデシュ	ジョハンギルナガル大学生物科学部	先端科学研究科	2018年10月9日
インド	インド科学教育研究大学ティルバナナプーラム校	先端科学研究科	2020年3月27日
スロベニア	リュブリャナ大学生物技術学部	先端科学研究科	2018年8月28日

### 国内の大学等との交流協定

協定機関	本学対応部局	協定締結年月日
東京工業大学 全学院	全研究科	1995年4月3日
お茶の水女子大学	全研究科	1995年4月3日
名古屋大学 大学院医学系研究科	生命科学研究科 (生理科学専攻)	1995年4月3日
名古屋大学 大学院工学研究科	物理科学研究科	2010年4月1日
東京大学 大学院理学系研究科	物理科学研究科 高エネルギー加速器科学研究科 複合科学研究科	1998年3月27日
東京大学 大学院情報理工学系研究科	物理科学研究科 高エネルギー加速器科学研究科 複合科学研究科・生命科学研究科 先端科学研究科	1998年3月27日
国際基督教大学 アーツ・サイエンス研究科	全研究科	2000年3月24日
京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	2005年4月1日
大阪大学大学院 人間科学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	2005年4月1日
神戸大学大学院 国際文化科学研究科 人間発達環境学研究科	文化科学研究科 (地域文化学専攻・比較文化学専攻)	2005年4月1日
千葉大学大学院 人文公共学府	文化科学研究科	2005年4月1日
北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	複合科学研究科 (情報学専攻)	2009年4月1日
千葉大学大学院 融合理工学府	物理科学研究科	2010年4月1日
津田塾大学 理学研究科	複合科学研究科	2015年4月1日
早稲田大学 基幹理工学研究科	複合科学研究科	2015年4月1日
九州大学大学院 薬学府	生命科学研究科	2017年4月1日
法政大学大学院 理工学研究科	物理科学研究科	2018年4月1日
名古屋大学 大学院理学研究科 大学院工学研究科 大学院生命農学研究科 大学院創薬科学研究科	生命科学研究科	2019年10月1日
大阪大学 大学院工学研究科	物理科学研究科	2019年6月1日
熊本大学 大学院医学教育部	先端科学研究科	2019年11月29日
滋賀県立大学 大学院人間文化科学研究科	文化科学研究科	2020年4月1日
沖縄科学技術大学院大学	複合科学研究科 生命科学研究科	2022年4月1日
関西学院大学 大学院理工学研究科	物理科学研究科 (宇宙科学専攻)	2022年4月1日
大阪大学 大学院工学研究科	高エネルギー加速器科学研究科	2022年4月1日

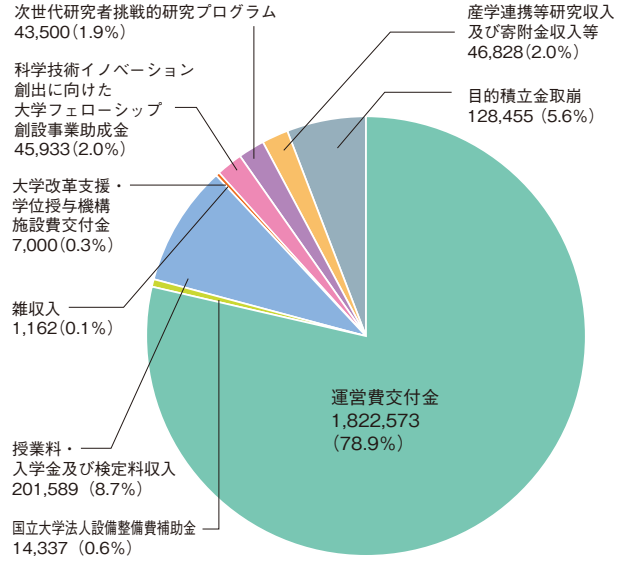
## 神奈川県内の大学等との交流協定

協定機関	本学対応部局	協定締結年月日
麻布大学	獣医学研究科	2001年1月10日
	環境保健学研究科	
神奈川大学	法学研究科	
	経済学研究科	
	経営学研究科	
	外国語学研究科	
	理学研究科	
	工学研究科	
神奈川工科大学	歴史民俗資料科学研究科	
	人間科学研究科	
	工学研究科	
関東学院大学	文学研究科	
	経済学研究科	
	法学研究科	
北里大学	工学研究科	
	看護学研究科	
	理学研究科	
	医療系研究科	
	看護学研究科	
湘南工科大学	薬学研究科	
	獣医学系研究科	
	海洋生命科学研究所	
	感染制御科学府	
専修大学	工学研究科	
	経済学研究科	
	法学研究科	
	文学研究科	
	経営学研究科	
鶴見大学	商学研究科	
	文学研究科	
桐蔭横浜大学	法学研究科	
	工学研究科	
東海大学	スポーツ科学研究科	全研究科
	文学研究科	
	政治学研究科	
	経済学研究科	
	法学研究科	
	芸術学研究科	
	体育学研究科	
	理学研究科	
	工学研究科	
	海洋学研究科	
	健康科学研究科	
	人間環境学研究科	
東京工芸大学	工学研究科	2002年3月20日
日本大学	生物資源科学研究科	
	獣医学研究科	
横浜国立大学	医学研究科	
	都市社会文化研究科	
	生命ナノシステム科学研究科	
横浜国立大学	生命医科学研究科	
	理工学府	
	環境情報学府	
	教育学研究科	
東京工業大学	国際社会学府	
	都市イノベーション学府	
東京工業大学	生命理工学院	2004年4月1日
明治大学	農学研究科	
フェリス学院大学	人文科学研究科	2005年4月1日
	国際交流研究科	
情報セキュリティ大学院大学	音楽研究科	2007年4月1日
	情報セキュリティ研究科	
東京都市大学	環境情報学研究科	
相模女子大学	栄養科学研究科	
	社会起業研究科	
松蔭大学	経営管理研究科	
青山学院大学	理工学研究科	
文教大学	情報学研究科	
神奈川歯科大学	歯学研究科	
鎌倉女子大学	歯学研究科	
聖マリアンナ医科大学	児童学研究科	
	医学研究科	
昭和大学	保健医療学研究科	2015年4月1日
女子美術大学	美術研究科	
田園調布学園大学	人間学研究科	2016年4月1日
横浜創英大学	看護学研究科	
		2018年4月1日
		2019年4月1日

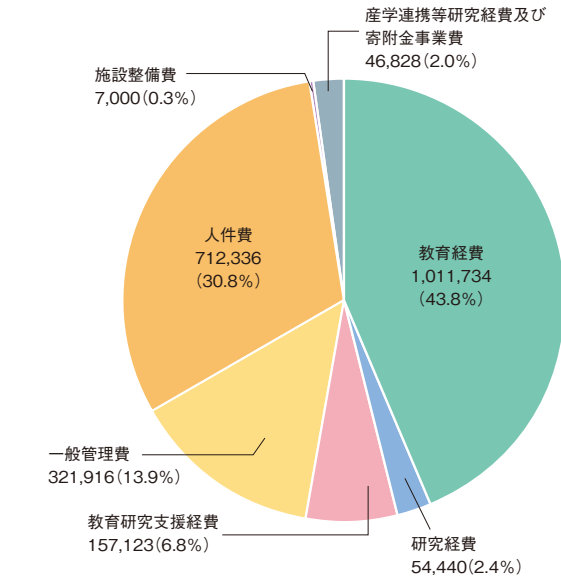
## 2022年度収入・支出予算

(単位：千円)

### ■収入予算総額 2,311,377



### ■支出予算総額 2,311,377



葉山キャンパス 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)  
電話 046(858)1500(代表)

S O K E N D A I



本学は 2018 年の創立 30 周年を機に、ブランドロゴを制定しました。

異なるアルファベットを接続するブランドロゴは、SOKENDAI が日本や世界の研究所をつなぐ教育機関であるという構造を表現しています。アルファベットのひとつひとつは研究所やそこで学ぶ人材の高い専門性や個性を表現し、文字をつないでいます。この上昇していくライン "Intelligence Connector" は広い視野と世界に開かれた自由な精神を象徴しています。



表紙画像：アゲハ視葉板の電子顕微鏡像

アゲハは、紫外線から赤までの広い範囲でわずか 1 nm の波長差が見分けられる、動物界最高レベルの色覚をもっている。アゲハの複眼の中には分光感度の異なる 6 種の光センサー（視細胞）があって、視覚第一次中枢である視葉板の中で互いに抑制し合うことで色知覚の基礎をつくっている。背景の画像は視葉板断面の電子顕微鏡像で、視細胞や視覚二次ニューロンがシナプスで結合するようすが見える。重ねたイラストは、視細胞が光エネルギーをとらえるラプドームという構造を模したものである。顕微鏡で捉えられる世界には、肉眼で見るとは次元の違う美しさがある。

〒240-0193

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

[www.soken.ac.jp](http://www.soken.ac.jp)

S O K E N D A I

